

【 2021 年度事業の基本方針について 】

特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場は、今年度の事業を終え通常総会を迎える運びとなりました。新型コロナウイルス感染拡大の波が繰り返し押し寄せ、長期にわたる先の見えない不安感がどの世代にも覆い被さり、この一年間、会員の皆様におかれましてはご心痛は如何許りかとお察しいたします。

さて、私共が 18 年間住み慣れた事務所は本年 11 月に移転いたしました。長きにわたってお世話になったオーナーの若生元子様とご家族の皆様、事務所の向かい側にお住いの針生ご夫妻（おじちゃん & おばちゃん）には、言葉では言い尽くせない程お世話になりました。若生様には、伸び放題の雑草を駆除して頂いたり、採れたて野菜を持って来てくださいました。おばちゃん手製のおでんやつみれ汁は格別でした。いつも縁の下で支えて頂き有難うございました。本当に心から感謝を申し上げます。

当法人の 2021 年度事業は、2 児童館指定管理と 2 児童クラブ運営、ママパパライン仙台、広報紙発行そして子どもによるサークル「ちょこタイム」活動でした。被災地支援や芸術鑑賞会などの自主事業は全て中止または延期となり、残念ながらコロナ禍拡大の波に翻弄された一年となってしまいました。

榴岡 & 新田児童館、成田小 & 成田東小児童クラブには各行政が利用の自粛を呼びかけ各家族の協力はあったものの 3 密回避ができる状態ではない日々が続いており、児童クラブも登録児童数の 6~7 割以上の利用が続いています。気懸りなことは、コロナ禍で「おうち時間」が長くなり新しい生活様式下の学校生活も重なり、コミュニケーション不足が助長されたこと、思いっきり体を動かさない結果子どもたちの体力が低下していること、適度な距離感が掴めないことです。また、蔓延防止重点措置等が繰り返され、その都度、乳幼児親子の利用が中断してしまいました。子育て中の母親たちにとって「おうち時間」は孤立した空間となりストレスが蓄積されたことが窺えました。再開時、「誰かと話をしたかった」「ようやく来てほっとした」など、母親たちの声が大変印象的なものとなりました。このことはママパパライン仙台にかかってくる電話からも同じような傾向が見えます。

一方で、コロナ禍が長く続く中で分かったことがあります。得体の知れないウィルス相手に「やらない、やれない 2020 年」から、如何にして国や自治体のガイドラインに則り小規模ながら「やってみる、やってみる必要がある 2021 年」へと意識の変革を私たちが強く持つようになったことです。小規模ながら一つひとつ実績を重ねて、2022 年は with コロナから after コロナに向け居場所づくりと子どもたちのリアルな体験活動を具体化する段階としたいです。

この 11 月に、全国児童館・児童クラブみやぎ大会が仙台で開催されました。1 年半をかけて県内の児童館 & 児童クラブ職員 100 名が企画委員や実行委員会メンバーとして携わり、当方からは 4 現場 5 名と事務局 3 名が参画しました。コロナ感染拡大により完全オンライン開催に方向転換したにもかかわらず、計画から当日を迎えるまでに各現場の壁を越えたチームが出来たこと、宮城・仙台が築いてきた児童福祉と社会教育の融合を全国に発信できたこと、特に若い力が躍動したことが最大の財産となりました。全国大会への参画に限らず、若手職員の成長は確実に進んでいることも申し添えます。この力を更に引き出していくのが当法人の舵取りにかかっているといえます。

末筆乍ら、コロナ禍が続く中、職員の皆様には日々緊張感を持って職務について頂きました。不安感があることも承知しています。「こどもたちのために」の思いがあればこそですが、心より労をねぎらいたいと思います。

【1】基盤事業の実施

(1) 芸術文化体験事業

① 芸術鑑賞会

新型コロナウイルス感染に伴う緊急事態宣言や蔓延防止措置が拡大の波を受けて繰り返され、具体的な計画を立てることもできず実施を見送った。鑑賞会に参加する子どもたちとその家族が安心して楽しむことができるように、社会的責任を自覚し仙台市のガイドラインに則った感染予防対策だけでなく当法人側の運営体制を熟考し来年度の実施に備える必要がある。

(2) 子どもの体験事業

① 人形劇サークル「ちょこタイム」

■内 容 子どもたちによる人形劇をメインとしたサークル。人形劇を作り上げる過程とその発表を通して達成感・有用感を得る。コミュニケーション力や表現力が身につく。子どもたちが学校や家庭以外の大人と出会える居場所となっている。

■実施日 2020/12/20 (メイキングビデオ鑑賞)
2021/1/24 (次回に向けての話し合いと人形づくり)、2/21, 3/7
3/27 (宮城県・仙台市緊急事態宣言を受けてこれからの活動についてオンライン会議)
6/6 (県民の森でリフレッシュ) 7/4 (台本「たいせつなもの」完成)
10/31 (初めての読み合わせ)

■場 所 鶴ヶ谷市民センター、宮城県県民の森、旭ヶ丘市民センター

■発 表 2020年11月15日(日) 男女共同参画推進せんだいフォーラム2020
(エル・パーク仙台)

■評価

- ・メンバー3名(2021年10月時点で小2が1名、小5が2名)は、コロナ禍で予定が次々と変化する状況の中、実施日には休むことなく参加している。保護者の理解と協力が大きい。
- ・子どもたちが作品にこめた思いを大人たちが共有し合うことの大切さを感じる。子どもにとっても大人にとっても第3の居場所となっている。

② 「杜の子まつり in 仙台」

芸術鑑賞会と同じく新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施を見送った。

③ 「子育て応援フェスティバル N0.13」

芸術鑑賞会と同じく新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施を見送った。

(3) 子育て支援事業**① ママパパライン仙台常設**

<p>ママパパライン仙台の実施</p> <p>■内 容 子育て中の親たちの悩みや不安・イライラした気持ちを、電話を通して耳を傾け受け止め、親たちの自己肯定感を高め、子育てを前向きに取り組めるよう寄り添う子育て応援ダイヤル。ママパパラインは、仙台をはじめ全国8ヶ所で実施している。</p>
<p>◇「ママパパライン仙台」常設</p> <p>■実施日 毎週金曜日 54日間(全国キャンペーンを除く)、10時～16時</p> <p>■場 所 仙台市内</p> <p>■件 数 115件(無言・一言7件含む)、通話時間3,926分、平均約36分</p> <p>■従事者数 受け手11名、支え手2名、スーパーバイザー1名</p> <p>◇「ママパパライン仙台」全国キャンペーン</p> <p>(8箇所同時期実施：仙台、石狩、福島、千葉、東京、愛知、和歌山、兵庫)</p> <p>■実施日 2021年2月15日(月)～2月20日(土)6日間、10時～16時</p> <p>■場 所 仙台市内</p> <p>■件 数 3件、通話時間26分、平均約9分</p> <p>■従事者数 受け手10名、支え手2名、スーパーバイザー1名</p> <p>全国総件数：62件(無言・一言5件含む)、総通話時間：1,850分、平均約33分。</p>
<p>■評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年カードを作成し子ども関係機関に配布している。大分浸透してきている。 ・件数は118件で昨年(145件)より減少したが、昨年21件と多かった「無言・一言」が7件に減少した。 ・かけ手の内訳は、母親からの電話が89%で、父親からが6%、不明が5%だった。 ・昨年はコロナ禍が及ぼす日常生活の変化への不安や戸惑いの電話がとて多かったが、今年は少し落ち着いて対応している様子が窺える。コロナ感染の不安や戸惑いの電話は減少した。一方で、ワクチン接種の開始と共に、不安や家族内での意見の相違で悩んでいる電話が寄せられた。 ・子どもに関する悩みで一番多いのは「発育」に関する事で、発達障害に関する内容が多く、次に「しつけ」「生活」の順となった。 ・父親からの電話では、妻の育児放棄により一人で子育てしている大変さがあった。 ・シングルマザーからは、ダブルワークをしながらの子育てで収入減による生活苦の不安を語る電話があった。 ・インターネットを見てとか、他地域のママパパラインのカードを見てかけたという電話が多くなった。 ・気軽に出かけて友達と会話したり相談することが制限されている現状の中、特に悩みを話すことはないが、誰かに日常の出来事を話したいという気持ちから電話をかける方が増えた。 ・定期的に県外からかけてくる方やリピーターが多かった。 <p>■次へのアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての悩みはエンドレスで、この活動が引き続き社会から求められているのを感じている。 ・受け手の研鑽(スキルと客観性)と組織のリスクマネジメントは必須。

受け手・支え手・スタッフ研修

- 内 容 かけ手の悩みに寄り添うため、スーパーバイザーを交えてケースの検討と傾聴力を高める研修・研鑽を行なった。

◇ママパパライン仙台定期研修

- 実施日 2020年11/12、2021年1/14、2/4、3/4、5/13、6/10、7/8、8/12、10/14
12・4・9月は中止（毎月第2木曜、10:00～12:30）

- 場 所 泉区中央市民センター

- 参加人数 受け手・支え手 84名

◇ママパパライン全国研修・交流会

- 2021年3月13日にオンラインで開催され、全国のママパパライン開催地の仲間22名により1年の活動報告と課題についての意見交換が行われた。

■評 価

- ・定期的な研修は、ママパパライン仙台の基盤の維持と受け手の傾聴力の向上のための基盤。
- ・長引くコロナ禍の中、社会状況が更に厳しくなり日常生活に及ぼす影響も深刻になってきている。様々な不安や戸惑いを感じている家族への支援について、客観的情報の共有と研鑽が必要。
- ・オンラインによる全国研修・交流会は、各地のママパパラインに取り組んでいる多くのメンバーと対面し意見交換や交流ができた。各地での情報や課題点が繋がり共有して考えることが出来た。

■次へのアクション

- ・コロナ感染拡大が子育て家庭に及ぼす影響は、今後増々深刻な状況になると思われる。親の失業や収入減、在宅ワーク、精神的不安感の増幅など、子どもへ大きく影響を及ぼすと考えられる。不登校、いじめ、子どもの貧困、虐待など様々な問題を理解するための研修や研鑽が受け手に求められる。
- ・組織のサポート体制の充実。
- ・かけ手に寄り添うため、受け手には客観的に捉える視点と傾聴力の更なる研鑽が求められる。

広 報

- 内 容 カード 155,000 枚作成

宮城県内各市町村子育て支援窓口、宮城県内小学校・幼稚園、宮城県各社会福祉協議会、宮城県内児童センター・児童館、宮城県内子育て支援センター、仙台市内市民センター、富谷市内公民館、のびすく5館、みやぎ生協等に配布。

河北新報、朝日新聞、読売新聞、とみいずに掲載。

せん杜広報紙「杜の子つうしん」、せんだい杜の子ども劇場 HP

助 成

- 内 容 ①宮城県共同募金会「みやぎチャレンジプロジェクト」の募金活動にエントリーし、758,000円の助成を受けた。
②子どもNPO・子ども劇場全国センターが受けた連合・愛のキャンパから、143,000円が配分された。

② 「ママパパライン仙台」子育て応援講座

<p>「ママパパライン仙台」子育て応援講座</p> <p>■内 容 子育て支援やママパパラインに関心がある方を対象に 6 講座を実施した。</p>
<p>■実施日 2020年12月6・13・20日(日)</p> <p>■場 所 仙台市シルバーセンター 第2研修室</p> <p>■講座名 「傾聴ボランティアをする上での心得」(受講者22名) 「子育て親の現状と支援を考える—産後クライシスの視点から—」(受講者25名) 「東日本大震災で親を亡くした子どもと家族の支援」(受講者21名) 「新型コロナウイルスが及ぼす家庭の問題(DV)を考える」(受講者23名) 「虐待など悩みのある家庭への理解」(受講者22名) 「発達が気になる子どもと保護者の支援について」(受講者23名)</p> <p>■参加人数 136名</p>
<p>■評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市のガイドラインに則ったコロナ感染予防対策を取り、広い会場(100名収容)で人数を制限(半分以下)しての開催。・申込受付段階で健康調査票を送付し、受講者及び講師に事前健康管理を促して実施した。 ・子育て支援の現場で働く方の参加が多くみられ、内容も充実してとても好評だったが、新しい受け手ボランティア希望者が1名だった。 <p>■次へのアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け手が不足している現状の中、現在の受け手の養成を兼ねる講座の継続が必要である。 ・継続していくため幅広い年代の受け手を確保するための戦略を考える。

③ 杜の子サロン

<p>子育て中の親たちの居場所作りと親同士の繋がりを支援し毎月1回開催してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年3月以降中止としている。</p>

(4) 指定管理事業および運営委託事業**① 榴岡児童館の指定管理**

■指定管理期間：平成19年(2007)4月～令和7年3月(指定管理15年目)

■所在地：本館：仙台市立榴岡小学校敷地内隣接

第1サテライト室：名取ビル富弥1F

第2サテライト室：108二十人町1F

第3サテライト室：仙台サンプラザホテル4F

■開館日：日曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)を除く毎日

■開館時間：本館：9時～18時(月～金)、9時～17時(土)

児童クラブ：8時(学校休業日)～19時15分(延長登録児童のみ)

延長&学校長期休業日等の早朝対応：本館&第3サテライト室

■職員体制：館長・常勤職員11名、非常勤職員9名、アルバイト3名(短期を除く) 計23名

■苦情解決第三者委員：3名。利用実績なし。

■児童館地域連絡会：13名。榴岡地区町内会連合会長、榴岡小学校長・父母教師会長、東華中・宮城野中学校長、榴岡地区防犯協会会長等。

事業評価、意見と要望を伺う場であるが、コロナ禍のため対面式会議は開催しなかったが、3月に事業報告を届け評価と意見を書面で頂いた。本音で相談できる場所である。

■アンケートの実施：回答総数 770名。

対象：小学生、児童クラブ登録児童、東華中および宮城野中2学年全生徒、乳幼児保護者、児童クラブ保護者、一般、榴岡小5学年全児童、榴岡小教員。

内容：児童館&職員について、行事評価、やってみたいこと、心配や不安に思う事、要望の他、コロナ禍による「おうち時間」(学校休校中を含む)の状況、コロナに対する不安、学校休校中の心の様子等の設問を入れた。記述式が多いものの胸の内を書き出す傾向があった。子どもたちからは友達に会いたい心情や大人へ注がれる目線が窺えた。

■事業の実施状況

- コロナ禍の中、児童館運営は3月まで児童クラブ受け入れ、乳幼児親子の平日午前中の利用、土曜日みの自由来館の利用が続いたが、4月5日からの「蔓延防止重点措置」の発出により児童クラブのみの受け入れが5月11日まで続いた。その後、8月20日より9月12日まで、宮城県が「蔓延防止等重点措置」を、国が「緊急事態宣言」を発出し、児童クラブの受け入れのみの状況が続いた。期間の詳細は、乳幼児親子のみ午前中利用(3/27～5/11、8/20～9/30まで休止)、小学生以上の自由来館の利用は土曜午後13:30～16:00のみ利用(3/27～6/12、8/20～9/30まで休止)と、休止と再開を繰り返した。状況変化が著しく、利用については館内表示や児童館だよりでは不足児童館HPに掲載し対応した。児童クラブ保護者への対応は状況に応じて榴岡小一斉メールで配信してもらった。
- 行事は乳幼児定例会を中心に毎月3～4回実施できたが、自由来館を含む小学生行事は年間4回に留まった。
- 児童クラブは利用自粛を仙台市と共に呼びかけ、毎日の利用平均は160名ではあるが3密回避は極めて困難な状況が続いている。

【小学生】

• 「こどもまつり」：R2,12/12、参加者数69名。

本来であればR3年3月に実施予定であったが、コロナ禍で学校休校となり、スタッフ会は半年間中断となってしまった。その子どもスタッフに再度連絡を取ったところ20名が「是非ともやりたい」と表明し、ガイドラインに沿った感染予防対策を考えながら企画・運営までをやり遂げた。3密回避のため参加者をグループ分けし時間差受付としたり、滞留しないように立ち位置等に標示を貼る等の工夫をし、館内に迷路を、館庭はサッカーストライクアウトのコースを開設した。当日は、榴岡小学校校長先生や教職員が訪れ子どもたちを激励した。

• 「おいでよ。夜の児童館へ」：8/7 参加者数20名(応募者は40名→抽選)

夕食は各自おにぎり持参。火起こし体験とマシュマロローストをグループごとに行ったが、初めてマッチを擦る子もおり火おこしに苦戦していた。恒例となった徳泉寺住職のミニ講話と肝試しに挑戦した子どもの表情は緊張で少し強張っているように見えたが、ゴール後の表情はホット安堵しつつ自己肯定感が高まったようだ。

- ・「小学生ハロウィンパレード」：R3,10/30、参加者数 30 名。
2年ぶりの開催に希望者は 60 名を超えた。2 グループに分かれ時間差をつけて宮城野大通りを練り歩き地域の協力を得て大盛況となった。
立ち寄り先→ハッピーデンタル、くだものいたがき、仙台市生涯学習センター、ロッシェ、榴岡天満宮、徳泉寺、オニオンとまと、松栄不動産
- ・「作品展に出そう、行こう!」：10/23&30、1 年生 5 名。
段ボールを使った作品をつくり「ぞうさんの家作品展」に見に行くという 2 週連続の企画。子どもがアートで表現する、お互いの作品を認め合う事を通してアートの創造性と参画意識を体験した。作品展の会場は宮城野文化センターで、往路は徒歩、復路は JR を利用した。

【放課後児童クラブ】

- ・2021 年 4 月登録児童数 280 名。(本館 95 名、分室Ⅰ 45 名、分室Ⅱ 87 名、分室Ⅲ 53 名)
- ・日常は「子どもの遊びたいあそび」を基本にしているが、利用自粛要請はしているものの本館・分室 1&2 の密集度は高い。コロナ禍が長引いていることにより、体力の低下、適度な距離感およびコミュニケーションの不得手さが目立った。毎日の校庭でのあそび(キックベース、ブランコ、シーソー、フリスビー等々)は遊び方からの指導が欠かせなかった。館庭に桜が移植され昆虫が多くなり虫取りに幅が出てきた。空き箱による自由工作、紙人形&ペパピポロボットは毎年好評であるが、スタッフと共同で作成するボードゲームづくり、恐竜等の折り紙も多くなってきた。
- ・子ども集会：児童館で起こった気懸りなことについて、その都度集会を開催してきた。自分の意見を話す・相手の意見を聴くことから、子ども同士で考え気づくことに重点を置いてきた。子どもの参画を進める上での基本であるとの認識で、職員の関わり方の学習にもなっている。
- ・遊戯室の使い方、あそびの順番は上級生がリーダーとなって進めている。
- ・「ボンクラーズショー」：クリスマス企画として実施。本館および分室 3。
- ・「防災エンスショー」の実施：6 回。3 密回避のため榴岡小体育館、本館遊戯室、分室 3 で実施。手回し発電機・空気砲・宙に浮く家などの実験を通して大規模災害時に役立つ知恵や身の守り方等を学習した。講師は阿部清人氏(せん杜理事)
- ・ミニ講話「せっきーのお話」：全 4 回。講師は徳泉寺住職 関口真爾氏。自分とは違う見え方や考え方を持つ人がいること。そして、命の大切さを学ぶ機会となる。
- ・「そあとの庭」ワークショップ：坪沼 WS:5 回、定員を 20 名と児童クラブ登録児童のみが対象。自然体験森の探検、遊び場づくり、ホタル観察など、児童の体力やコミュニケーション力を高める自然体験活動となった。訪問ワークショップ:7 回。砂場 WS は榴岡小校庭と榴岡 5 丁目公園で実施。モザイクアート WS は本館と各分室で実施。
- ・「真山さんの WS」:手描きシール WS は本館と分室 2
ボトルキャップマグネット WS は分室 1 と分室 3
- ・児童クラブ保護者懇談会：1 年生はクラス毎で 5 回、2 年生以上は学年毎開催した。参加者数は毎回異なったが、コロナ禍が長引く中、初対面の保護者は多かった。今後も開催して欲しい要望が相次いだ。
- ・児童クラブ登録保護者説明会：4 回。1 回 45 分。

【乳幼児】

- ・定例会と行事は分室 2 を会場に行った。(乳幼児親子の利用の妨げにならないよう配慮。)
- ・「街かどコンサート」：3/12、親子 20 組を 2 回に分けて開催。申し込み制。

- 主催：仙台国際コンクール組織委員会 仙台市市民文化事業団ピアノ・コントラバス・チェロの三重奏に乳幼児さんもしっかりと聴き入っていた。ナビゲーターはピアニスト田原さえ氏。
- ・「クリスマスツリーを飾ろう！」：子育て支援クラブガーネットによる企画。子どもを背負いながらクリスマスの館内装飾を行い、乳幼児親子にクリスマスプレゼントを用意した。ママたちの社会参画意識は健在である！
 - ・「乳幼児親子向けハロウィン」：R3,10/28、定員 20 組（申し込み制）を 2 グループに分けて、2 か所から出発するなどコロナ禍の感染対策を万全に、可愛い衣装を身につけた乳幼児さんと街を練り歩いた。
 - ・月齢ごとの「ひろば」：「ぴよぴよ」「よちよちひろば」「ぴょんぴょん」定員各 10 組、申し込み制。蔓延防止重点措置等の発出解除と共に開催した。毎月 1 回。

【子育て支援】

- ・「おしゃべりひろばぴっころ」：定員各 10 組、申し込み制。毎月 1 回。蔓延防止重点措置等の発出解除と共に開催した。
 - ・「つつじがおかサロン」（共催：榴岡地区民生委員児童委員協議会）：定員 12 組、申し込み制。蔓延防止重点措置等の発出解除と共に開催した。毎月 1 回。
1. 「救急救命講習会」：R2,11/18
榴岡地区日赤奉仕団との共催、乳幼児向けの心肺蘇生法や AED の操作方法を学んだ。
 2. 「クリスマスミニコンサート」：R2,12 月 親子 11 組。パネルシアターやピアノを奏でる中で読み聞かせ、鈴やマラカスを使うリトミックを楽しんだ。サンタさんよりプレゼントも届けられた。
- ・縁が輪ねっと：1 回実施。
地域および周辺の子育て支援諸団体と情報交換会の場である。コロナ禍での各団体の様子や不安、課題となっていること等についてアンケートを実施し冊子にまとめ報告会を行った。
 - ・宮城野区家庭健康課と連携：今後の施策についての意見交換、支援の必要な親子の情報共有とつつじがおかサロン、縁が輪ネットへの参画。
 - ・子育て支援クラブ「ガーネット」：R2 年 12 月、クリスマス週間として乳幼児親子来館者に向け、来館親子のメッセージ等貼り付ける巨大紙製ツリーの作製とプレゼントを用意した。コロナ禍の中にも拘らず、分室 2 で検討を重ねた。ママの参画は途絶えていない。

【中高生】

- ・コロナ禍の中、行事は実施できなかった。
- ・残念ながら仙台市内中学校 2 学年の職場体験の受け入れはなかった。
- ・専門学校生の実習受け入れ：1 件。蔓延防止重点措置等発出期間は受け入れを控えた。

【地域連携】

- ・「榴岡界隈ワイワイまつり」：夏&冬とも開催中止。R3 年 12 月実施に向け準備中。
- ・天満宮例大祭と富くじ：中止。折に触れて物的寄付を頂いた。
- ・榴岡地区総合防災訓練：役員の実施のみ。
- ・榴岡地区町内会連合会定期総会、その他の会議：書面による開催もしくは中止が続いている。
- ・ハロウィンパレードへの地域商店等の協力：乳幼児親子&小学生の立ち寄り所ではノベルティを用意するケースが増えた。
- ・榴岡小 PTA&学校支援地域本部：日常の往来は減っているが、児童館へ立ち寄って共有することは変わらない。

【安全・衛生関係】

- ・コロナ対策：仙台市のガイドラインに則り実施している。榴岡小との共通認識に基づく行動および連絡体制が出来ている。
- ・手指消毒液、ペーパータオル、蓋つき足踏み式ゴミ箱、定期交換玄関マットの常設。

- 消毒リスト表に沿った定時及び随時の消毒作業。
- 来館者および職員の健康チェック。
- 職員の検温表、アクリル板の設置等の設置等。
- 館内は全室とも窓は常時開けている。サーキュレーターと空気清浄機の設置。
- 光触媒によるコーティング：館内外（自動ドア、ドアノブ、手すり、トイレ、水回り、テーブル、ロッカー、椅子、事務機器等）、遊具、玩具等
- 夏場の高温対策：玄関付近にガーデンシャワー（ミスト発生器）設置。遊戯室は遮光ネットと熱中症指数計測器を設置。こまめな休憩と水分補給を促す。外遊びや遊戯室での遊び時の室温および外気温を細目にチェックした。
- 事故防止：複数のマニュアルを整備。速やかな修繕。＊学年ごとに水筒置き場を設置。
- 地震被害：2/13、3/20、5/1の震度5弱により、分室3（サンプラザH内）で非常灯が傾く等の被害あり。ホテル側で修復対応済み。
- 訓練の日：毎月1回諸訓練を実施。本館と分室ごとの訓練。榴岡小の諸訓練時は連動して実施。仙台サンプラザHで実施の防火・防災訓練への参加。訓練計画は本館と各分室の担当者（1名ずつ）で作成することとした。

■「児童館だより」12回発行。（毎月発行枚数：1800枚）

町内会回覧、榴岡小全家庭配布、東華&宮城野中・クラーク国際高校仙台校・仙台市立大志高校で掲示。仙台市生涯学習センター等関係機関や榴岡地区保育園、放課後児童サービス等に配布。

「児童クラブだより」：年5回発行 2020年12月、2020年3/17、5/4、7/20、9/21

■職員ヒアリング&職員面談：年1回ずつ。

■職員研修

- 法人主催：4回（榴岡、新田、成田小児ク、成田東小児クの各所で開催。）
顧問弁護士による苦情解決について講義&ワークショップ
- 宮城県児童館・児童クラブ連絡協議会主催研修：コロナ禍の中、定員は削減された。
- 仙台市主催：職員は全9回のうち2年間で1回を受講する。
DVDによる受講となったので、受講対象者の他、当日出勤のスタッフも共に聴講し共有と研鑽を図った。
- ＊コロナ禍の中で当法人主催の合同研修会が出来ない状況が続いている。職員ミーティングの中に「子供の理解」「目指す児童像」「そのための手立て」についてグループで共有していくワークショップを毎回のミーティングに入れた。榴岡&新田。
- 児童館×東北の造形作家を支援する会SOATによるワークショップ：年間を通して実施。
坪沼地区でのワークショップ：4か所で計13回。
訪問ワークショップ：砂場WS、モザイクアートWSなど各所で実施。
- 第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会：11/7。
職員研修として全員参加を基本とした。完全オンラインによる基調講演等の全体会と希望する分科会受講。
理事・実行委員・企画委員として企画運営に携わった。
- その他の外部研修：随時参加。

■職員ミーティング：毎月2回開催。消毒後13時より開催。

放課後の児童登館前のミニミーティングと行事等の打合わせは随時。

■ 榴岡児童館利用状況（人数）

	R2.11月 ～R3.3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	年間計
幼 児	1448	0	114	267	208	0	0	282	2319
児童クラブ	11996	3403	2920	3535	3243	2911	2649	2941	33598
その他児童	197	0	0	2	10	21	0	41	271
中 高 生	0	0	0	0	0	0	0	3	3
一 般	1258	0	108	257	195	0	0	244	2062
合 計	14899	3403	3142	4061	3656	2932	2649	3511	38253

* 乳幼児親子の児童館利用は、コロナ禍で 9:00～12:00。R3.3/27～5/11 と 8/20～9/30 は乳幼児親子利用休止。

* 小学生以上の自由来館は、コロナ禍で土曜日の 9:30～12:00 と 13:30～16:00。R3.3/27～5/11 と 8/20～9/30 は小学生以上の土曜日利用休止。

■ 評価

- ・昨年度に引き続きのコロナ禍の中、乳幼児親子や自由来館の利用が出来ない期間が繰り返され、「おうち時間」の中での心情やストレス・不安がアンケートより見て取れた。安心して過ごせる場所として、職員は「チーム児童館」で子どもたちとその家族に寄り添う事を心掛けた。
- ・職員会議の中でグループワークショップを繰り返したことで、目指す児童館像と子ども像の共感性が増した。仙台市の研修は館内で DVD による聴講となり職員全員で共有できた事、顧問弁護士による事例に基づいた職員参加型ワークショップの実施も職員の研鑽に繋がった。
- ・手首までの手洗い、黙食、ソーシャルディスタンス、暑い中のマスク着用などの「新生活様式」は、日常生活の一部となったが、子どもたちの言葉に出さないストレスが、子ども同士のコミュニケーションやあそびの中に表れている。
- ・消毒作業は日々やりながら工夫を重ねた。乳幼児の利用が午前中、児童クラブが放課後からというサイクルの中、消毒作業を一斉に行う時間の確保に苦慮した。光触媒コーティングを施したことによって、来館者だけでなく職員の心的安心が増した。
- ・東日本大震災時と同じくコロナ禍でも、地域から物心両面から応援してもらったことが職員にとって大きな支えとなった。
- ・学校との顔が見える関係はコロナ禍でも発揮された。一斉メール配信、保護者向け共同文書、陽性者や濃厚接触者が分かった場合の対応と流れの確認が共有できており心強い。校長と館長の意見交換を含め日常の情報共有は引き続いており、学年ごとの教員と職員により情報交換は 1&2 学年で実施済み。コロナ禍の中、授業参観等を参観することは出来ないため、コロナ禍以前に比べると職員が学校に足を運ぶ機会は減少している。
- ・榴岡小増改築が進行中だが、児童の動きに伴う安全確保は榴岡小とはもちろんだが、工事責任者が毎週工程表を持参する。安全確保のため 3 者が共有することが出来ている。
- ・行事は限定されてしまったが、中断した「こどもまつり」を子どもスタッフ会がやり遂げたことに子どもの参画意識が途絶えることなく続いている手ごたえを感じた。
- ・乳幼児親子向けの定例会と榴岡地区民生委員・児童委員協議会との共催「つつじサロン」が再開でき、「孤立しない」「ひとりで抱え込まない」子育て支援を地域と共に続けることができた。コロナ禍においてイベント開催が難しい中、「開催していただきありがとうございます！楽しかった！」との声から子育て支援の一助になっていると感じる。平日の利用が平均 15 組、仙台市内児童館の中で利用率の高いことがわかった。
- ・児童クラブの保護者を対象に懇談会を行った。特に 1 年生はクラス毎に実施したが、「同じクラスであることが初めて分かった。」という保護者が多かった。如何に 3 密回避やマスク着用が人間同士のコミュニケーションに影響しているかを目の当たりにした。学齢期の子育て支援をどのように具体化していくかを更に地域と共に考えていく必要がある。

- ・行事の実施の度に、地域と保護者の理解と協力があることを常と感じた。応援してくれる土台が如何に大切かを若手職員が共感できたことも大きい。

■次へのアクション

- ・仙児連と共に仙台市との市民協働を進め、コロナ禍からコロナ後の児童館へのフル再開について検討していく。
- ・子どもの参画力を引き出すために年間を通した子どもスタッフ会を立ち上げる。
- ・With コロナの新しい生活様式の中、子どもまつり&地域世代間交流の場となっていた児童館まつりの再開を目指す。
- ・縁が輪ねっとの構成団体と共に、コロナ禍でストレスを抱えている親子支援を検討する。
- ・乳幼児から学齢期の子どもとその家族支援をワンストップで支える仕組みづくりを地域と共に進める。
- ・コロナ禍で疲弊している職員のケアと処遇について考慮する。
- ・全国大会で共感できた人の輪とネットワークを活かし、子どもとその家族が楽しめる遊びの場を仙児連および県児連と共に具体化する。
- ・職員の共有度とスキルアップのため、榴岡&新田合同勉強会を開催する。外部研修への参加を増やす。
- ・コロナ禍の状況にもよるが、坪沼 WS など館外活動の参加対象を自由来館児童に拡大する。
- ・地域連絡会の再開。
- ・アンケートから見える中学生の思い等を児童館活動に活かすため彼らの話を聴き「やりたい」ことを形にしていく。

令和2年度にあたっての指定管理者による自己評価】

- ① 学校の臨時休校に伴い、榴岡小と児童館は最小限の児童クラブと子どもの居場所の確保に努めた。特に校長と館長が連名で全校保護者向けに両者の役割や自粛協力等の文書作成など細部にわたって共有し、教員と職員間も更に理解を深め児童への対応が出来た。コロナ禍に於いても協働関係は不変である。
- ② 児童クラブ登録数は280名。本館と3分室による運営だがコロナ禍の中での3密回避には困難さが伴った。児童の心身のストレスと体力低下の衰えが懸念され、仙台市とのやり取りとコロナガイドラインに則り坪沼エリアでの自然体験ワークショップを5回、防災エンスショーを実施した。参加児童及び保護者から体験活動に対する共感を得られた。
- ③ 乳幼児親子の利用は13組以上となったため、月齢に応じた定例会は分室2で行い、日々来館する親子の利用と分けて行った。「人に会いたかった」「話がしたかった」との母親たちの声からコロナ禍の中で不安を抱えていることが分かり、傾聴し寄り添う事を丁寧に行った。
- ④ 乳幼児の親同様に児童クラブ保護者を対象にクラス毎の懇談会を実施し、児童クラブの様子を伝え保護者同士を繋ぐ場を作った。
- ⑤ 榴岡エリアの子育て支援ネットワーク「縁が輪」は1回の開催に留まったが、アンケートを実施しコロナ禍での課題等を話し合えたことは大きい。
- ⑥ 子どもスタッフ会が中心となって計画した「こどもまつり」は、コロナ禍で2020年10月の自由来館再開まで中断となってしまったが、スタッフ会メンバーの強い思いで12月に実施することとなった。3密回避等を考え定員制や回数を分ける等の対策に本人たちが真摯に取り組み、当日は69名の参加があった。子どもの参画力は衰えておらず、また当日参加した児童も心待ちにしていたこと、保護者の理解も窺えた。
- ⑦ 地域との協働行事等は地域事情でできなかったが、日々児童館を物心両面で支えて頂いた。

② 新田児童館の指定管理

- 指定管理期間：平成 22(2010)年 4 月 1 日～令和 7 年(2025)年 3 月 31 日(指定管理 12 年目)
- 所在地 本館：仙台市宮城野区新田 2 丁目
 - 第 1 サテライト室：同館内に設置
 - 第 2 サテライト室：新田コミュニティセンター
2020 年 4 月から改装工事の為、2021 年 3 月まで未使用
2021 年 4 月から主に小学上学年
 - 第 3 サテライト室：新田住宅集会所に設置
 - 第 4 サテライト室：新田小学校生活室
(2021 年 3 月まで同じ階にある多目的学習室 2 か所使用)
- 開館日 日曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)を除く毎日
- 開館時間 本館：9 時～18 時(月～金)、9 時～17 時(土)
 - 《児童クラブのみ》8 時(学校休業日)～19 時 15 分(延長登録者のみ)
 - サテライト室 放課後～17 時(月～金) *延長利用場所：本館
- 職員体制 館長、副館長、常勤職員 8 名、非常勤職員 8 名、長期アルバイト 3 名 計 21 名
- 苦情解決第三者委員 3 名 利用実績なし。
- 児童館地域連絡会委員 14 名(新田学区連合町内会会長、新田小校長、父母教師会会長等)
新型コロナウイルス感染予防対策(以下コロナ対策)のため会議は開催せず。資料を作成し配布。
- 事業の実施状況
2021 年 3 月 26 日から宮城県・仙台市緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の実施と延長から、昨年度から、館の事業の実施対象、実施期間、時間など様々な制限が加えられた。本館は「児童館地域子育て支援室」の宮城野区の拠点館であることから、土曜日の自由来館については、乳幼児親子は午前中の利用、小中高生は午後のみ利用としている。期間の詳細は、乳幼児親子のみ午前中利用(3/27～5/11,8/20～9/30 まで休止)、小学生以上の自由来館の利用は土曜午後 13:30～16:00 のみ利用(3/27～6/12,8/20～9/30 まで休止)と、休止と再開を繰り返した。仙台市から児童クラブ保護者に感染拡大防止に最大限配慮しながら運営を継続する旨と、密集性の緩和から自粛要請を伝えるものの、ほぼ通常通りの放課後児童クラブの利用数となっている。
- 【小学生・児童クラブ】
 - ・コロナ禍で 3 密の回避など様々な制限がある中で、子どもたちの心と身体の健康に資する環境作りに取り組んだ。日常生活においては、感染予防対策として手指洗い、消毒、マスク着用を常に促した。遊びにおいては、子どもの自主性を尊重し、子ども自らが様々な遊びを選択し活動できるように工夫している。児童クラブ室内では、各種のテーブルゲームやブロック、おもちゃ等で遊んだり、空き箱やダンボールを活かした自由工作活動ができるようにしている。特に空き箱を利用した「ビーコロ」作りや、CD を利用した「CD コマ」作りは人気が高い。また、簡易アニメソフトを使ったアニメーション作りを行っている。チームでの活動で協力し合いながら制作している。児童館と館庭をつなぐ「軒下」は利用価値が高く、雨天時でも竹馬、一輪車、コマ回しなどができる空間となっている。館庭では、虫探し、かけっこ、おにごっこ、砂場遊びなどの遊びの他、畑での野菜作りや花壇での植物栽培で季節感を味わいながら豊かな活動体験ができています。遊戯室は、コロナ対応を徹底しながら「学年別ドッジボール」や「ダンス」を楽しみ運動能力や調整力の向上に資するだけでなく、エネルギーの発散の場にもなっている。
 - ・放課後児童クラブ登録人数：274 人(2021 年 4 月)
保護者会 11/14,12/5 (都合 4 回の分散開催)。7/15,7/16,7/17 (都合 4 回の分散開催)
保護者説明会 3/5, 3/6,3/12, 3/13 (都合 8 回の分散開催)

保護者会終了後、短時間、少人数に別れての交流会を開催。保護者の情報交換の場となった。

- 児童クラブだより：年3回発行。
- 例年、小学上学生の企画立案による行事の「でんでんタイム」を年度末に実施するため、早い時期からの子ども企画会議を実施していたが、今年度は残念ながら未実施となった。そのためサテライト毎に子どもたちの意見希望を聴きながら日常の行事活動に生かしていった。
- 「クリスマスパフォーマンス」（小学生クリスマス会発表会）では小学生の出演者が11組37人となったため、本館と学校サテライトの二か所で実施した。また、本館では、出演者と観客の3密を避けるため事前撮影を行い、当日の鑑賞会場を分散し、録画と実際の演技の二本立てにして鑑賞し、密を避ける工夫をした。後半のビンゴ大会は高学年生スタッフが仕切り自己達成感の醸成に役立った。
- 「王様ドッチボール」は、支援を要する上学年生が発案・企画し遊びを実施した。ゲーム構成やルール作りなども行い、当児童が審判役となった。館庭で3日間行われ、低学年も混ざり大いに盛り上がった。自己有用感を大いに高めることができた。
- SOATワークショップ：造形表現活動と館外での自然体験活動。
造形表現活動では、モザイクアートに取り組んだ。テーマを子どもたちが「四季」と決め、各サテライトで季節を選び、3密を避けながら、子どもたちの感性と自主性に任せて制作した。大きな屏風に仕上げられた作品は、「ぞうさんの家」の作品展に出展し、社会に鑑賞していただく機会を得た。自然体験活動では、砂場ワークショップの場所を隣接する公園の砂場、夏季休業中の学校砂場にも広げた。サテライト毎の活動とし人数を分散できただけでなく、活動する場が非日常的な空間に変わり、エネルギーが活動となった。高学年が低学年を思いやる姿も見られた。坪沼での自然体験活動は、昨年に続いて、参加者をバスの定員の半分に限定し実施した。自然の中で子どもたちの持つ好奇心や探求心が引き出される活動を行い、子どもたちの心身の発達と成長を大いに促した。また支援を要する子どもたちが自然の中に溶け込み自由に活動する様子が見られた。

【子育て応援・乳幼児】

- 毎日12組前後の来館があり、リピーターが多く、子育て支援のニーズが高い地域である。育児休暇中の0歳児親子の利用者と父親子が増えている。
定例会(月齢別)：「さくらんぼひろば(0才)」「いちごひろば(1才)」「ばななひろば(2-3才)」「めろんくらぶ(2-4才)」(各「ひろば」定員10組として実施)
主に季節を感じさせるようなイベント・活動を実施し楽しんでもらっている。
スペシャル「だっこおんぶ講座」6/22 高砂支援室保育士2人講師
- 宮城野区家庭健康課と連携：支援の必要な親子の情報を共有し支えた。
- 宮城野区「地域はっぴいプロジェクト」：手作りおもちゃの作成に協力
- 「ほっこりサロン」60歳以上のスタッフ(民生委員も)と乳幼児親子が世代間交流できる会を開始した。コーナー毎に「読み聞かせ」や「お絵描き」「おもちゃ作り」「英語で遊ぼう」等を行い、楽しくゆったりした時間を過ごした。
5/28(10組)、6/23(13組)、10/22(9組) 宮城野区家庭健康課保健師2人見学
- 子育て支援クラブ「ドーナッツ」では乳幼児をもつ母親たち自身が企画運営を行い、大きな達成感を得ている。コロナ対策から民生委員に依頼していた託児を職員が行った。
(初めましての会4/15、野菜苗植え、水遊び8/26、野菜収穫、秋リース作り10/14など。)
- 新田地区の子育て連絡会「NOKISHTA ねっと」はコロナ対策で、開催を2020年度は1回(2/22,15人)。2021年度(7/9,16人)ニューフィールド保育園から年長児が見学(1/26)。子ども園から職員への自然探検講師依頼と館長への子育て講演依頼があった。

【中高生、大学等】

- ・中高生：遊戯室 土曜 13:30～16:00 (3/27～6/12,8/20～9/30 まで休止)
- ・中学校職場体験受け入れ：コロナの為 2021.10 まで職場体験希望なし
- ・ボランティア：常盤木学園高等学校音楽科生徒 4 人「オータムコンサート」乳幼児親子対象

【各種企画行事の実施】

諸行事において、仙台市のガイドラインに即した計画書を作成した後、仙台市とやり取りを繰り返し、三密回避、換気、消毒・マスク着用、検温、体調管理などコロナ対策を講じ実施。

- ・小学生対象：新春将棋大会 1/16 (中止) 「小学生ハロウィン」10/30
- ・児童クラブ対象：「クリスマスパフォーマンス」(小学生発表会) 出演者 37 名
「ベガルト教室」(サッカー16人、ダンス21人)
「夕涼み会」(8/7)「夕涼みリベンジ」(10/2)
「SOAT ワークショップ」
モザイクアート(サテライト毎)後合体して4面屏風に。
砂場ワークショップ：西田公園と集会所、小学校砂場(サテライト毎)
坪沼神社自然体験：コロナ対策で定員を半分にすることで参加者は抽選 全5回
ほたる鑑賞(6/19,24人)
「ロケットストーブ」製作
環境教育と食育教育に活かすために導入を考え児童と共に製作
講師 宮城県環境リーダー 石井洋子氏

【乳幼児親子対象】

- 「オータムコンサート」演奏者：常盤木学園高等学校音楽科生徒 4 名
ピアノ、マリンバ、バイオリンの合奏とそれぞれの独奏
乳幼児親子予約参加 15 組(当日の自由来館は見合わせた。)
コロナ禍の子育てで不安を抱える中、高校生のフレッシュな生の演奏に触れ、「感動しました」「癒されました」などの感想を参加者全員からいただいた。
「乳幼児クリスマスデー」12/24,12/25 フォトブースを用意し、菓子を渡した。
「ハロウィンコンサート」ピンポンパン☆公演 10/29 2回ステージで30組予約参加
「産後わらべうたダンス」月1回(NOKISHTA ねっとメンバーで支援者が講師)

【安全・衛生関係】

- ・コロナ対策：本館と各サテライト室の玩具、遊具、ロッカー、トイレ、扉などを光触媒でコーティング(3～5年の有効期間)を施し、消毒作業の徹底と効率化を図った。手指消毒液の常置。手洗い場とトイレにペーパータオル常備。定時及び随時の消毒作業。ソーシャルディスタンスの確保。健康調査出席カード。事務室と創作活動室にアクリルボードを設置し、飛沫の拡散を防止した。換気のため常時窓等を開放に。サーキュレーターや扇風機も活用し強制換気にも務めた。
- ・夏場の高温対策：本館館庭にミストシャワーを設置、夏場は常時使用し体温調整に役立った。こまめな休憩と水分補給。夏休み中本館と各サテライトで水遊び時間を設定した。中庭に、人工芝を敷き、遮光ネットを設置することで、活動場所の確保だけでなく、館内の良好な空気循環に役立った。(前年までは中庭は灼熱地獄)換気については前記に記載。
- ・地震対応：2/13(土)深夜 23:08 震度 5 強の地震発生。遊戯室の天井材落下、各室壁にひび発生、ひろびろトイレ扉外れ等。職員確認後、翌日には事務局から仙台市に報告。

3/20(土) 18:09 地震発生。震度 5 強。軽微な落下物のみ、即日、確認後、事務局から仙台市に報告。

5/1(土) 10:27 に地震発生。震度 5 弱 遊戯室天井材落下、ひろびろトイレ扉外れ等。確認後、事務局から仙台市に報告。

【地域】

- ・新田連合町内会・新田住宅町内会・地域諸団体の諸行事・会議は継続して中止となっている。
- ・改装後の新田コミュニティセンターのサテライト室としての利用再開時、町内会から協力と支援を頂いた。
- ・新田小学校と日常的に情報交換を行った。子どもの安全確保のため、特に不審者情報への対応など、随時連絡を取り合った。小学校からの緊急時の一斉メールに、児童館からの伝達事項の配信を依頼した。小学校と関連機関・保護者と密に連絡を取りながら支援を要する子どもをサポートした。R2/7 から毎週水曜日の放課後体育館の利用ができるようになり、雨天時だけでなく、酷暑、寒冷の場合の運動量の確保に役立っている。また、R3 には夏場の校庭の水道利用ができるようになり子どもたちの健康管理に大いに役立っている。残念ながら、担任との児童についての情報交換会はコロナ禍で実施に至っていない。
- ・新たに始まったほっこりサロンに民生委員の参加協力。
- ・地域の方々からの手作りマスクの寄贈。
- ・高学年生数名が花束を作成し、宮城野区の最高齢者を祝った。

■「児童館だより」 12 回発行（毎月発行数：1,700 部）

■職員ヒアリング 1 回、職員面談 1 回

■職員研修：全体研修は中止。顧問弁護士による研修会（苦情解決）。外部研修はオンデマンド、リモートであったことから、より多くの職員の研修が可能になり、研修回数も増えた。月 1 回の職員打ち合わせ後半部で、子どもたちの現状の把握と目指す子ども像を小グループ（サテライト単位）で数回話し合い、共有した。

■職員ミーティング：毎月職員打ち合わせを開催、午後ミーティングは随時。館長会議。

■新田児童館利用状況（人数）

	2020.11~3	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	年間計
幼児	1,230	0	129	243	207	11	0	228	2,048
児童クラブ	12,263	3,564	3,267	3,864	3,548	3,014	3,018	3,224	35,762
その他児童	95	0	0	24	37	4	0	67	227
中高生	44	0	0	5	9	5	0	0	63
一般	1,156	0	127	222	196	10	0	213	1,924
合計	14,788	3,564	3,523	4,358	3,997	3,044	3,018	3,732	40,024

※ 乳幼児親子の児童館利用は、コロナ禍で原則 9:00~12:00 だが、R3.3/27 ~5/11 と 8/20~9/30 は乳幼児親子の利用休止。

※ 小学生以上の自由来館は、コロナ禍で土曜日の 13:30~16:00 だが、R3.3/27 ~5/11 と 8/20~9/30 は小学生以上の土曜日午後の利用休止。

■評価

- ・コロナ対策を継続強化した。その中でも換気については、仙台市による「遊戯室西側の窓の改修工事(12/2)」が大きく貢献している。従来西側の窓がはめ殺しのため換気がしづらだけでなく、西日による温度上昇が顕著に見られ、他の 3 方向の窓、扉を開放しても効果的な改善は見

られなかった。窓をスライド式に改修したため、換気のための通路が東西に開かれた。合わせて、中庭への人工芝(4/26)・遮光シート(5/10)の設置により、熱風の巢から涼風の源となり、東から西への換気の道ができ、コロナ対応と同時に猛暑対策ともなった。西側の窓の改修は長年の市への要望であったがこの時期の実現はコロナ禍にあって待望の吉事であった。

- 消毒作業については、定時とおよび常時館内消毒作業を徹底し、換気と共に3密を回避するように努めた。子どもたちに手指洗い・消毒・マスク着用・昼食時の黙食を促し、帰りの会でも意識付けを行った。消毒液・マスクを常時設置し、消毒用品等を常に備えた。職員は毎日検温し、健康を保ち業務に携わった。本館およびサテライト室の玩具類、遊具、ロッカー、トイレ、便器などに光触媒のコーティング(3~5年の有効期間)を施し、消毒作業の徹底と効率化を図った。その結果、館内消毒作業が大幅に軽減され、本来の来館者の対応業務に余裕が持てるようになった。光触媒の効果は大きい。
- 小学校との連携をさらに深めた。昨年度からの水曜日放課後の体育館の利用に加え、夏場の校庭での水道の利用もできるようになり、運動面だけでなく健康安全面でも大いに役立つものであった。併せて、不審者対応などの緊急時の小学校一斉メール配信に児童館利用の保護者への通達が加えられ、子どもの安全が確保された。小学校や関係機関との連携により、支援を要する児童への対応を具体的に進めることができた。残念ながら、児童担任との情報交換会はコロナ禍の今、実施できていないが、働きかけを続けているところである。
- 放課後児童クラブ運営にもコロナ対策をとった。3密回避のため保護者会と保護者説明会を少人数に分散開催した。その後、更に少人数での情報交換会を行ったところ、保護者間の顔つなぎができただけでなく子育てについての情報交換ができ笑顔が広がった。県、市のコロナ禍におけるガイドラインの改定や通達等があるたびに文書作成し、利用者へ周知を図った。
- 様々な児童館行事については、仙台市のガイドラインに沿って計画実践し、安全・安心の行事実践に努めた。事前の問い合わせなどへの丁寧な応答に感謝したい。
- 制約の多いコロナ禍にあって、SOAT ワークショップの活動の意義は大きい。「モザイクアート」では、より活動しやすい場を提供することで表現の幅が広がった。「砂場ワークショップ」は、活動の場を広げたことで、多くの児童が他学年と交流しながらエネルギーに活動することができた。坪沼自然体験は、広い自然の中で心も身体も解放され、児童クラブの子どもたちや支援を要する子どもたちの発達と成長を大いに促した。
- 子どもたちの自主性を伸ばし、参画を促す上学年「でんでんタイム」は休止したが、児童クラブ行事「クリスマスパフォーマンス」や「王様ドッチボール」では、個性に応じた発表を行い、それぞれが大きな達成感を得た。「王様ドッチボール」とSOAT ワークショップは異年齢の交流の機会にもなった。
- コロナ禍での「NOKISHTA ねっと」の開催は、それぞれの支援団体が現状と対策を報告・共有することで、支援の有り方を再確認する場となった。支援者同士の支援が行われ、新田地区子育て支援の拠点の役割を果たした。
- 新田児童館職員全員での数回のグループ研修と顧問弁護士による苦情解決研修は、コロナ禍にある子どもとの関わり合いと保護者対応への気づきとスキルアップの有意義な職員研修となった。諸研修がオンデマンドのリモート形式で受講できることから、より多くの職員の参加が可能となった。2021/11/7の全国児童館・児童クラブみやぎ大会開催に向けての準備は、関連内外の支援者と繋がる機会となっただけでなく職員の成長の場となった。
- 児童クラブ対象や乳幼児親子対象の行事では、仙台市とやり取りし対策を講じ、職員や出演者には達成感を、参加者には満足感を与えることができた。
- 地域の諸行事・会議には出席できなかったが、児童館だより配布や個別の情報交換等であつなかりを保つことができた。手作りマスクの提供など協力も多数頂いた。

■次へのアクション

- コロナ禍の中でも、児童館の目標「地域のほっとステーション」を見据え、様々な感染予防・方法を徹底しながら、館の活動推進に向けて工夫・改善を進める。
- 様々な形で子どもの行事参画を促し、子どもの自主性や創造性、自己肯定感を高めていく。
- 諸行事の計画立案にかかわるステップと携わる人材の在り方について再構築を進める。
- SOATの庭やワークショップ、芸術活動に触れる機会を広げ、様々な大人に出会う場をすることで、子どもの感性の幅を広げ、創造性を高めていく。
- 支援を要する子どもとその家庭に対し、幼・保・小・中学校、地域諸団体、行政機関、関係機関との連携を強化し、つながりを深めていく。
- コロナ禍で不安を抱える子育て親子のサポートとNOKISHITAねっとの充実に努める。
- 自由来館の制限下、中高生に対しそれぞれの居場所作りと異年齢交流の場作りに努める。
- 新田小学校及びPTA、地域との連携・協働を進め、「顔が見える関係」の深化をめざす。
- 児童館の施設環境の確認・見直しを行い、より良い活動環境づくりを進める。
- 大規模児童クラブの適正でゆとりある運営のための人材確保と職員のスキルアップの場の設定。
- 業務分掌の見直しと適正化を図り、職務遂行のレベルアップを図る。

【令和2年度にあたっての指定管理による自己評価】

- ① 臨時休校中の児童クラブ利用については、多くの保護者の理解をいただき最小限の利用に抑えることができた。利用している児童についても、毎朝学校に職員が赴き、児童一人ひとりの顔を見ながら寄り添い、児童の心の安定安心に努めた。日常的な感染症対策とともに、窓への「遮光ネット」や館庭へ「シャワーミスト」を設置し熱中症への予防を行った。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事が実施できなくなる中で、対策をとりながら子どもの創造的な活動をできるだけ保証すべく、多くの手立てを講じ対応した。特に多人数になりそうな行事や外部の人が入る様な行事については、コロナ対応を仙台市と協議・相談しつつ計画立案し確認の上実施した。
- ③ 児童クラブ登録児童向けの「防災エンスショー」では防災の知識を得るとともに科学的なショーを楽しんだ。「オータムコンサート」は乳幼児親子対象に、常盤木学園の音楽科の生徒による演奏会を実施。ピアノ、マリンバ、バイオリンの演奏を楽しむとともに、演奏者にとっても貴重な機会を提供できた。
- ④ SOATの庭のワークショップの「坪沼の自然体験」では坪沼までの交通手段としてバスで、定員を半分にし、座席も指定するなど密に配慮した対応をした。坪沼での活動も吟味し、自然を満喫しながらも子どもの創造性を刺激する活動となった。
- ⑤ 例年行っていた「ハロウィン行事」や「クリスマス会」などのイベントも従来の活動形式にとらわれず、子どもたちの表現欲求を満たしつつ、活動場所を分散し密を避ける工夫により楽しい行事となった。
- ⑥ 宮城野区の子育て支援拠点事業館として、「新田NOKISHITAねっと」のネットワークの基、乳幼児親子の受け入れ時には、支援団体との協働で「産後わらべうたダンス」や季節の行事などを提供し母子ともどもに喜ばれた。
- ⑦ 衛生的で安全安心の場所の提供と、楽しい時間を過ごせる児童館を心がけ実践できた。

③ 富谷市立成田小学校児童クラブ運営受託

- 受託期間：平成 29（2017）年 4 月～令和 6（2024）年 3 月（受託 5 年目）
- 所在地 富谷市立成田小学校敷地内隣接
- 開館日 日曜・祝日・年末年始（12/29～1/3）を除く毎日
- 開館時間 月～金：学校放課後～18 時（延長登録者のみ 19 時）、土：8 時～18 時
学校休業日：8 時～18 時（延長登録者のみ 19 時）
- 職員体制 統括兼室長 1 名、常勤職員 2 名、非常勤職員 8 名 アルバイト 1 名 計 12 名
*統括は成田東小学校児童クラブも担当。
- 事業の実施状況
【放課後児童クラブ運営】
 - 登録児童数 118 名（2021 年 4 月 1 日登録時）
1 年 18 名 2 年 36 名 3 年 22 名 4 年 22 名 5 年 20 名 6 年 0 名
 - 令和 3 年度もコロナ禍の大きな影響が続いている。児童クラブでは三密をあらゆる場面で回避していかなければならない。子どもたちの大好きな遊びでも、コロナ対応に気を遣い続けることが子どもにも職員にも求められている。成田では室内収容可能人数の上限が低く、その過密状態を減らすために校庭や三丁目公園を積極的に活用し、屋外遊びの時間を多く取る配慮が必要だ。また遊びでは子どもたち同士が密着しないように声をかけ、もし近づいてしまったら適切な距離をとるよう指導しないといけない。
 - 夏季の熱中症対応は熱中症計を使用し、警戒以上になったら外遊びの時間を 10 分間と制限した。帽子とマスク着用を声掛けし、外遊び後は手洗いの徹底を働きかけた。ビニールプールでの水遊びも数回実施した。
 - 子どもたちが主体的に児童クラブの生活をするためには、児童クラブで個々の有用感が高まり、それぞれが存在意義を持つことが大切だ。このように育つためには、児童クラブが安心した居場所になり、自分の考えやアイデアをのびのびと話し合える場所であることが望まれる。こういうのびやかな環境の中でなら、一人ひとりの力も、集団としての力も育ち高まっていくのだが、令和 3 年度は子どもたち同士の密接を避けるために、学年としての会議やミーティングを開催しなかった。そのため児童クラブがグループとして成長できなかったことがある。年度後半になり、コロナ禍がやや落ち着き、話し合いの時間を確保できるようになった。お楽しみ会等のイベントを企画・運営する場面で、個人の感性や魅力などが表現されるようになってきた。お互いの良さが子どもたち同士で共有できるようになってきた。コミュニケーション力も高まってきている。冬休みのお楽しみ会に向け、子どもたちが自主的に実行委員会を組織し、多くの子どもたちを巻き込みながら計画を進め、本番に向かっている。
 - 児童クラブでの“あそび”面に関して、子どもたちが自主性を持ち企画提案運営を行う姿が見られた。6 月、新しいレゴブロックの利用開始に伴う新ルール作りでは、異なる学年の 3 人が手を上げ、1 時間程度で人数割りや時間制限などを考え出し、皆の前で発表した。1 年生を優先するなどの様子が見え、ルール決めへ参画する自主性と低学年への配慮を感じた。また、高学年の子どもたちのアイデアで野球クラブが誕生し、男子を中心になかよく野球をする姿があった。遊びという得意分野の中で、子ども達が本来持つ力が発揮されている。
 - SOAT（東北の造形作家を支援する会）などの外部講師によるイベントを子どもたちは楽しみにしている。コロナ禍のために日程調整で苦労した。SOAT によるワークショップを坪沼八幡神社で 2 回、児童クラブで 3 回、計 5 回実施した。坪沼のワークショップは金槌、のこぎり、釘抜きなど、道具の使い方と共に体の使い方やチャレンジする精神を体験的に学ぶ機会となっている。自然環境の中で子どもたちの個性が発揮され磨かれていることを感じる。いずれのワークショップでも参加した子どもたちの表情が穏やかに変わっていくのが印象的だった。

- 子どもたちに寄り添い、保護者と子育てを共有するために連絡帳を活用している。子どもたちは連絡帳に一日の「ふり返し」を記入し、それに職員がコメントを添えている。「これを読むのを楽しみにしている」という声も多く聞くようになった。また、保護者が迎えに来た時、子どもたちが頑張ったことなどを明るく伝え、親子が安心して帰宅できるように配慮している。
- 学校での生活と連続性を確保するため、学校担当者（教頭）と情報交換や情報共有を積極的に進めたいと考えている。令和3年度は2年生、3年生で独善的な行動をとる子どもが多く、学校での様子や保護者との情報交換を共有したいと考えていた。しかし、学校から学級担任が児童クラブ訪問に来たことはあるが、学校側の窓口である教頭とは共通行動がとれないでいることが大きな課題点となっている。

【各種企画行事の実施】

- お楽しみ会年3回（子どもたち・職員主催）、ゲーム大会など。
- 外部講師による行事：絵本のおはなし会、防犯教室、防災エンスショー、砂場WS、モザイクアートWS、坪沼WS。

【安全・衛生関係】

- コロナ対策：手指消毒液の常置。体温測定。ペーパータオルホルダー、蓋つきゴミ箱の設置。定時及び随時の清掃・消毒作業。ソーシャルディスタンスの確保。
- 避難訓練：定期の訓練

【地域連携】

- 成田地区防犯協会の「安全教室」参加。11月21日（土）会場：成田小学校。
- 子ども食堂との連携
- 成田地区青少年健全育成連絡会への参加。研修会出席（児童虐待の現状と対応について）。総会は書面開催。情報交換会と講演会は中止。

■とみや児童クラブ運営団体会議：6月より毎月開催。

■職員ヒアリング：1回

■職員研修：法人主催1回。顧問弁護士による苦情解決について。

富谷市・富児連共催1回

講師：蔦森武夫氏。「現場が抱える支援を要する児童の対応について」

第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会参加（リモート研修）

*成田児童クラブ独自研修：職員の児童理解、発達障害知識や観察力の向上を目的として実施。宮城県立図書館と「えくぼ」より資料を借用しDVD視聴を行った。（ASD、アンガーマネジメントについて）

■スタッフ会議：毎月開催、打ち合わせは随時。

■成田小児童クラブ利用状況（人）

	R2.11~R3.3	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	年間計
1年生	2,037	256	211	238	203	172	185	218	3,520
2年生	971	404	348	423	387	335	336	386	3,590
3年生	997	146	120	135	152	134	100	116	1,900
4年生	314	186	164	202	190	170	147	183	1,556
5年生	0	50	14	16	71	87	11	32	281
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土曜日	110	22	26	22	26	12	17	26	261
合計	4,429	1064	883	1036	1029	910	796	961	11,108

■評価

○職員について

- ・夏休みは、非常勤職員1名が家庭の事情で長期に休むことになった。家族が病気の職員もいて、朝の準備や昼食時に職員が少数になってしまった。秋休みは勤務変更がなく、安定した状態で職員を配置することができた。
- ・アルバイトを含め職員12名で子どもたちに対応した。コロナ禍で心身の状態が心配な子ども、情緒的に不安定な子どもがいた。きめ細かに寄り添うために、若い非常勤職員の勤務時間を1時間延長し対応させた。
- ・来所から帰るまで受容的に見守る人がいることで、遊びの提案やトラブル防止の役割を果たした。反面、職員の子どもたちへの寄り添い方については、打合せやスタッフ会議で「受容的」にと機会あるごとに話してきたが、管理的で過干渉な態度が払拭されない職員もいた。
- ・たくさんの研修経験をもとに職員が、法人が掲げる児童像を理解し、共通行動で育成支援にあたることを更に期待したい。
- ・日常の事務作業は3名の常勤職員で行った。業務を見直し、より達成率が上がるようにしていきたい。

○施設について

- ・定員は70名であるが、令和3年度は118名を受け入れた。利用人数が多く施設をいろいろ工夫しながら使用している。
- ・夏休み中はサテライトとして学校施設（図書室、特別教室、保健室、トイレ）を借用できるようになっているものの、お盆期間の1週間は学校が閉校になるので児童クラブは使用できない。今年度は50名を切る利用だったので児童クラブ室内で対応したが、人数が多くなった場合は未解決だ。
- ・夏休みに成田公民館を使用した。移動途中で高温のため具合を悪くする子どもが出てしまった。夏休みは距離のある移動は避けた方がよいことがわかった。通常時の学校使用では学校行事があると断られることが多かった。

■次へのアクション

○事業

SOATワークショップは子どもたちだけでなく保護者にも大好評、継続的に実施したい。

○保護者との連携

保護者会、個人面談は信頼関係を構築するのに有効なので、機会を見て実施していきたい。

○学校との連携

子どもたちのために学校との連携を深めなければならない。

○保育所・幼稚園との連携

就学前後の連続性の確保。環境の変化への対応という観点からも近隣の保育所・幼稚園との連携を進める。

○地域との連携

地域・関係機関に対し児童クラブの役割や活動内容について伝える。

○事故やケガへの対応

現在加入しているスポーツ保険の保障は範囲が限定されるので見直したい。

○防災・防犯対策

成田小児童クラブとして、計画やマニュアルの策定および職員の日常行動の向上を目指す。

④ 富谷市立成田東小学校児童クラブ運営受託

■受託期間：平成 29（2017）年 4 月～令和 6（2024）年 3 月（受託 5 年目）

■所在地：富谷市立成田東小学校 校舎内 1F 5 教室

■開館日：日曜・祝日・年末年始（12/29～1/3）を除く毎日

■開館時間：月～金：学校放課後～18 時（延長登録者のみ 19 時）、土：8 時～18 時
学校休業日：8 時～18 時（延長登録者のみ 19 時）

■職員体制：室長 1 名、常勤職員 1 名、非常勤職員 8 名、アルバイト 1 名、計 11 名。

*成田小学校児童クラブに統括を置き、成田東小学校児童クラブも担当している。

■事業の実施状況

【放課後児童クラブ運営】

・登録児童数 92 名（2021 年 4 月 1 日登録時）。

1 年 26 名 2 年 21 名 3 年 16 名 4 年 17 名 5 年 10 名 6 年 2 名 計 92 名

・子どもの好奇心や想像力・創造力を育てるような工作活動・遊び活動を行っている。季節行事も取り入れ生活に変化と潤いをもたせるように心がけている。

・子どもの体力向上と子ども同士の協調性を育み、ストレス発散のためにも運動遊びの促進を図っている。校庭での外遊びを習慣づけている。毎週水曜日には成田東小体育館を利用し運動あそびを行っている。雨天時には児童クラブ内のミニホールを使って行っている。

・3 月『I CHI GO!! 祭り』は、子ども実行委員が企画運営を担い開催した。ポスター作成と告知、卒業する 6 年生への招待状、準備物の割り出しと支援員への協力依頼、実施の際は支援員と一緒に役割を担った。実行委員ではない子どもたちもゲームの進行係に手を挙げ皆が楽しく過ごせるよう動いた。実行委員のみならず子どもたちが積極的にイベント運営へ関わろうとする姿が見られ、参画力の高まりを感じる。子どもたちが行事に主体的に関わることが更に豊かな児童クラブ生活へ繋がると考える。今後も多くの子どもがより主体的にかかわる児童クラブを目指し、そのための支援員の役割を探っていきたい。

・生活面では、日常を通してひとり一人の子どもに寄り添うことを心がけている。

・年度当初、前学年のまとめが不十分のまま進級し行動に心配を感じたが、少しずつ成長している。学校と家庭そして児童クラブが同じ方向をみて共有・共感することが大切と感じる。

・小学校の教頭を窓口として担任や養護教諭との情報交換を行った。児童クラブでの子どもたちの様子、配慮を要する子への具体的支援内容を伝え、共に取り組んでいくことを確認。

・外部講師を招き、各種の企画行事を設定している。

・SOAT（東北の造形作家を支援する会）によるワークショップを坪沼八幡神社で 2 回、児童クラブで 3 回、計 5 回実施した。坪沼では、普段体験できないロープを使っての崖下り、木登りやくぎ打ち、丸太切り、ターザンロープなどに積極的に取り組む姿が見られた。坪沼ワークショップは 20 人限定としたが、23 人の応募があり、ワークショップの浸透を感じる。

・WS 活動の中で 4・5 年生のキャプテンを置きリーダーシップを発揮してもらった。低学年生を前に、意欲的に活動に取り組み役割を成し遂げた。雨天の中で服が汚れるさつまいも掘り活動もあったが、保護者から好感的な声が届いており理解が深まってきていると感じる。学校や児童クラブではできない自然体験で、子どもたちは笑顔がはじけ意欲的に活動している。

・保護者とは日常的に連絡帳のやり取りと迎え時の声掛けを大切にして、子どもの様子を共有するよう努めている。

・児童クラブだより：毎月発行。活動の様子と毎月の予定を知らせた。お知らせやお願いなども定期的に発信し円滑な利用の一助となるようにした。

【各種企画行事の実施】

- ・作って遊ぼう（毎月）、体育館で遊ぼう（ほぼ毎週）、読み聞かせ（毎月）凧作りと凧揚げ大会、カルタ大会、節分豆まき、ひな祭り会、ICHIGO!!まつり、スポーツ大会、七夕飾りづくり、夏まつり、お月見会、クリスマス会、ドッチボール大会、成東カフェ。
- ・外部講師：防災エンスショー、砂場WS、お話し会、ALTと遊ぼう、ベガルタサッカー教室。
- ・SOATによるワークショップ：坪沼八幡神社自然体験2回、砂場WSやモザイクアートWSによる造形体験計3回。

【安全・衛生関係】

- ・コロナ対策：手指消毒液の常置。体温測定。ペーパータオルホルダー、蓋つきゴミ箱の設置。定時及び随時の清掃・消毒作業。ソーシャルディスタンスの確保。
- ・避難訓練：定期の訓練の他、2/13 深夜発生の地震を受け緊急時の職員の動きを再確認。

【地域連携】

- ・防犯教室等は、新型コロナウイルス感染拡大のため実施できなかった。
- ・成田東小学校との連携協力。
情報交換会：随時
不審者対応訓練：1回
- ・成田地区青少年健全育成連絡会：総会は書面開催。情報交換会・講演会等は中止。

■職員ヒアリング：1回

■職員研修：法人主催1回、顧問弁護士による「苦情解決について」

富谷市・富児連共催1回

講師：蔦森武夫氏、「現場が抱える支援を要する児童の対応について」

第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会参加（リモート研修）

*成田東児童クラブ独自研修：スタッフ会議で“いじめ”についての学習会を実施。

■スタッフ会議：隔週開催、打ち合わせは随時。

■成田東小児童クラブ利用状況（人）

	R2.11~ R3.3	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	年間計
1年生	1,606	344	326	373	364	326	332	346	4,017
2年生	1,285	248	232	269	257	241	253	271	3,056
3年生	866	186	197	204	168	135	164	151	2,071
4年生	765	198	173	206	192	187	174	168	2,063
5年生	83	59	44	45	78	72	58	68	507
6年生	16	15	7	12	12	7	7	9	85
土曜日	122	11	5	4	6	3	1	2	154
合計	4,621	1,050	979	1,109	1,071	968	988	1,013	11,799

■評価

- ・コロナ禍ということで、「個人面談会」は実施できなかった。子どもの様子や保護者の願いや心配などを具体的に聞くことと信頼関係の醸成と運営に役立てるために次年度はぜひ実施したい。
- ・季節ごとの行事は、その都度職員がアイデアを出し合ったり、子どもたちの要望を受けたりして企画している。そのため同様の季節行事でもワンパターンにならずに実施でき、子どもたちにも好評である。子どもたちの運営参画も図ってはいるが、中心となる中・高学年児童のクラブ利用に偏りがあり十分な参画にはなっていない。
- ・外部講師による企画行事は、今年度は防災エンスショー、読み聞かせとベガルタサッカー教室、成田東小 ALT との交流だった。外部からの指導者ということで子どもたちも適度な緊張感の中で活動でき好評である。違った大人を知ることも大切な活動であると考えている。
- ・子どもたちのトラブルは、ひとり一人に向き合えるだけ話を聞き取るように心がけている。叱るのではなく、どうすればトラブルにならないかを考えさせるようにしている。また、当事者同士で話し合い、お互いが納得できる形でその日のうちに解決に結びつけられるようにした。
- ・人とかかわり合いが苦手な強い子どもに対しては、指導や寄り添いが通じず苦慮しているところである。

■次へのアクション

- ・行事への子どもたちの運営参画を進める。事前の企画や準備にも進んで参加する意識を育てるように今まで以上に仕掛けを多くして、子ども自身の発想を生かした行事・活動の設定を進めていきたい。現2年生の中に行事に積極的にかかわろうとする児童が複数いるので、そういった子たちに声がけをし、行事づくりに参画させていきたい。
- ・コロナ禍で地域と連携した行事を実施できなかった。次年度はぜひ開催したい。地域の民生児童委員を中心に、小学生の下校時間帯に犬の散歩や庭先でのあいさつ運動がなされているので、それをきっかけに交流活動を計画したい。
- ・成田地区防犯協会と連携し、子どもの安全を守る活動に協力いただくと共に、児童クラブの役割や活動について知らせていく。
- ・小学校との連携をより密にし、子どもたちをよりよく育てていきたい。今年度学校と連携して不審者対応訓練を行ったが、学校も含めて当事者意識をより強く持つことができた。今後継続する。
- ・保育所、幼稚園とも連携を進め、子どもたちへの理解を深め指導に活かす。
- ・成田東小児童クラブとして、防災・防犯計画の見直しを進める。
- ・SOATによる自然体験&造形体験は、得難い体験活動として今後も継続していきたい。
- ・せんだい杜の子ども劇場による芸術鑑賞事業、子育て応援の各種プログラム事業についても、子どもの成長だけではなく保護者への支援の観点から広報活動を広く行っていく。

(5) ネットワーク事業**① 仙台市内児童館連絡協議会**

■内容 児童館指定管理者および事業受託者 12 団体で組織。ネットワーク構築の基、市民協働による仙台市内児童館の質の向上を目指してきた。

① 毎月 1 回の定例会議

内容：コロナ感染の陽性者がでた場合の児童館の対応について、児童クラブ利用自粛協力について、乳幼児親子および自由来館の利用休止と再開について、陽性者がでた場合の対応の流れ、職員の児童対応についてのマニュアル・方針の提示、宮城県最低賃金アップに伴う人件費増額、サテライト室増減判断時期等について仙台市への提案事項を検討。

臨時会議：1 回

陽性者がでた場合の館内消毒について仙台市へ仙児連として申し入れることを協議。

② 県児連第 4 地区としての情報交換会を実施。**③ 『第 17 回全国児童館・児童クラブみやぎ大会』 オンライン開催に向けての取り組み、実行委員会、企画運営、分科会等企画委員および分科会担当など。**

■実施日 ① 定例会議：2020 年 11/19、12/18、

2021 年 1/22、2/19、3/19、5/21、6/18、7/16、9/21、10/15

臨時会議：2021 年 6/8

コロナ対応で臨時休館となった場合の館内消毒について定例会議にて意見交換。それを踏まえて臨時会議で検討を行い、仙台市へ意見提出とワーキング会議開催を要望した。

② 第 4 地区 情報交換会：2021 年 1/13、1/14、1/15、1/19、1/20

区毎に開催。コロナ禍の中、ガイドラインに沿ってグループワークを行った。

仙台市が掲げる 4 本柱（子育て支援・健全育成・放課後児童クラブ・地域）に基づいて自由討論。

③ 第 17 回全国児童館・児童クラブみやぎ大会

実行委員会、企画委員に参画。分科会の検討と実施。当日の運営。資金調達。

■場 所 ① 榴岡児童館分室 2

② 仙台市戦災復興記念館 4F 第 1 会議室**③ 東京エレクトロンホール宮城 開催までの諸会議は随時市内で開催。**

■参加人数 ① 12 指定管理団体 2 名ずつ ② 仙台市内児童館職員 ③ 全国から 870 名

■従事者数 ①② 12 指定管理団体 ③ 12 指定管理団体と児童館スタッフ

■評価

・コロナ禍の中、各児童館は感染予防対策、利用自粛要請の児童クラブ運営、乳幼児と自由来館利用停止等からくる先の見えない不安を抱えていることが分かった。3 密回避など考慮し、5 回に分けて情報交換を行ったことで、with コロナで「何ができるか、どこまでやったらよいか」について共に考えることができた。

- 全国児童館・児童クラブみやぎ大会への仙児連および市内児童館職員の参画は、東日本大震災や過去2回実施した「まるごと児童館」で構築できた人・地域・行政・社会のネットワークをコーディネートする中心的役割を担ったといえる。
- 特に、若い職員が指定管理や児童館の枠を超えて力を発揮したことが一番の成果といえる。
- コロナ禍の中での諸対応と全国大会を通して、仙台市担当課と協働して諸事対応できた。

■次へのアクション

- 区毎に分けた情報交換会実施。
- 行政との市民協働による市民と地域のニーズに添った児童館運営を進める。
- 全国大会は終了したが、若い力が中心となって仮称「あそびの屋台」を実施する。

② 宮城県児童館・児童クラブ連絡協議会

■内 容 宮城県内の児童館・児童クラブおよび受託団体で組織し、連携と活動の向上を目指す。

11月7日の全国児童館・児童クラブみやぎ大会開催に向け、基調講演やシンポジウム、各分科会の内容を具体化していった。しかしながら、本年5月に入り、新型コロナウイルス感染状況の拡大が止まらず、やむなくオンライン開催に方向転換することとなった。以降、大会全体像を再構築するまでの6か月間、実行委員会、理事会、企画運営部会、各分科会の企画委員による協議が続いた。各会議とも対面およびzoomによる協議となった。大会当日までのプロセスは県内の児童館関係者の他、行政（宮城県および仙台市）との協働の基、「オールみやぎ」で対応できた。本年度は、全国大会開催が県児連の活動の中心となった。通常総会はコロナ禍の中、書面総会となった。

- ① 理事会：定期総会および臨時総会への提案。運営全体についての管理及び協議。
全国児童館・児童クラブみやぎ大会全体統括、事務局的作用を担う。
- ② 通常総会：会員への提案説明と承認。→書面総会。
- ③ 地域代表者会議：第1～7地区に属する児童館館長で組織。総会議案や全国大会開催に向けての進捗状況等の説明。
- ④ 地域情報交換会：第1～7地域に属する児童館館長で組織し現場の声を抽出する。
今年度の実施についてはコロナ禍の中、各地域の判断に委ねた。
- ⑤ 各地域研修会：全国児童館・児童クラブみやぎ大会への参加を研修とした。
- ⑥ 児童館職員等研修会：9回、コロナ禍の中、規模を縮小して実施。
- ⑦ 広報紙発行：「みやぎのじどうかん」74号、3月発行。
- ⑧ 全国児童館・児童クラブみやぎ大会実行委員会
R2年11月に発足。実行委員10名。
主催3団体の他、宮城県および仙台市の担当課より参画あり。
- ⑨ 全国児童館・児童クラブみやぎ大会の開催
全体会：かにっこ和太鼓、震災時の状況から今日までの復興映像、
宮城県知事&仙台市長の祝辞等、サンドウィッチマンからのメッセージ、
シンポジウム、基調講演（野澤令照氏、瀧靖之氏）
分科会：仙台、石巻、名取、東京会場で13分科会

- 実施日 ① 理事会：2020年11/30、12/16、
2021年1/16、2/1、3/8、4/12、5/17、6/21、7/26、9/14、9/21、10/18
- ② 通常総会：書面総会。会員児童館数214。(児童館188、児童クラブ26)
書面評決承認93、委任状93ですべて承認となった。
- ③ 地域代表者会議：2021年9/21
- ④ 第4地区情報交換会：2021年1/13、1/14、1/15、1/19、1/20
- ⑧ 全国児童館・児童クラブみやぎ大会実行委員会：
2020年11/6、9/25、11/6、12/10
2021年1/12、1/26、2/19、3/10、3/22、5/21、6/25、9/24、10/29
- 場 所 ①②③④⑤⑥⑧：仙台市生涯学習支援センター、まなウェルみやぎ等。
⑨：東京エレクトロンホール宮城
- 参加人数 ① 11名 ②④各児童館・児童クラブ代表者 ③ 7地域代表者
⑤&⑥ 県内児童館、児童クラブ ⑧ 10名と理事 ⑨ 870名
- 従事者数 宮城県児童館・児童クラブ従事者と指定管理及び運営受託団体、実行委員会委員

■評 価

- ・昨年度に引き続き通常総会是对面式ではなく書面による評決となってしまったが、県内の児童クラブが会員となったことで現場の共有度は増している。
- ・コロナ禍の中で、全国大会は当初計画していた対面型開催から完全オンライン開催となったが、開催まで僅か半年の中で「オールみやぎ」で取り組み、全国から870名の参加となった。開催までのプロセス、内容ともに好評を博し終えることができた。
- ・人のネットワーク、市民協働、児童福祉と社会教育の融合そして県内の児童館&児童クラブの職員の力が一体となり、震災からこれまでに築いてきた実績と成果を全国に発信できた。
- ・全国大会に向かい実行委員会の運営や事務局として理事会の機能が重要なポイントとなったといえる。理事の役割を含め組織運営について熟慮する機会となった。
- ・全国大会実行委員会への宮城県・仙台市・宮城県社会福祉協議会の参画は、市民協働の成果といえる。
- ・若手児童館&児童クラブスタッフのネットワークと活躍が垣根を越えて力をつけていることが最大の成果と捉える。
- ・児童館職員等研修会はコロナ禍の中での制限はあるが、研修の機会を繋ぐことはできた。
- ・県児連の法人化には議論を尽くすことが出来なかった。
- ・企業等広く社会から協賛が得られ、児童館&児童クラブへの理解が広がったことは大きな一歩。

■次へのアクション

- ・全国大会での成果から見えてきたことを宮城県内だけでなく全国の自治行政の施策に如何に提言等ができるか。…理事会の発信力が求められる。
- ・全国大会で得た社会からの協賛を「児童館の応援団」として、次年度予定している「(仮)子どもが集う遊びの屋台」の協賛に繋げる。
- ・県児連の法人化につて、熟議する一年とする。

③ 子どもの放課後支援をすすめる会

■内 容 仙台市内で子どもの放課後事業に携わる児童館・放課後児童デイ・放課後子ども教室・民間学童クラブ等が組織し、子どもがインクルーシブに放課後を過ごすことが出来る環境づくりを目指している。事務局は（特認）アフタースクールばるけ内に置いている。コロナ禍の中ではあるが、2020年12月にコロナ禍の影響についてアンケートによる実態調査を行った。会員向け研修会は実態調査の報告と今後に向けてグループディスカッションを行った。昨年度はやむを得ず中止となった仙台市健康福祉局・子ども未来局・教育局の3局長との懇談会は11月15日に行われ、調査報告と要望、意見交換を行った。

① アンケートによる実態調査の実施

対象：児童館・放課後児童ディサービス・放課後子ども教室・民間学童保育
回答数：33か所

② 定期総会：書面総会、幹事のみ zoom 出席。

③ 研修会：10/29。3局の担当課出席。

④ 仙台市3局長との懇談会

代表幹事3名、事務局長、幹事2名が出席。

仙台市子供未来局長・健康福祉局長・教育長と各部課長出席。

⑤ 幹事会：コロナ禍の中、研修内容および諸事調整、総会への提案等はZoomによる会議とし最小限の回数に留まった。監査は郵送で対応。

■実施日 ① 2020年12月～2021年1月 ② 7/16 ③ 10/29

■場 所 ③ 仙台市福祉プラザ ④ 仙台市役所上杉分庁舎

■参加人数 ① 33か所 ② 会員30名、行政6名 ④ 代表幹事、事務局長、幹事対応

■従事者数 ①②③④共に幹事会が対応。

■評価 zoomの活用により活動が途切れることなく継続できた。

- ・コロナ禍の影響について実態調査を行うことができたが、大変な中での現場は多く回答数は33か所にとどまった。放課後児童ディサービス利用へのコロナ禍の影響が大きいことが分かった。
- ・仙台市3部局のトップとの懇談会が再開し、率直な意見交換を行うことができた。
- ・代表幹事1名、幹事2名が交代あり

■次へのアクション

- ・仙台市3局と共催のシンポジウムを実施。
- ・ニーズの高いコロナ禍の影響とこれからのための情報交換会を実施。
- ・子どもの理解を深めるための研修を再開する。放課後子ども教室従事者への参加呼びかけ。
- ・代表幹事1名、幹事2名が交代→幹事会の熟議が必要。
- ・新会員の獲得。
- ・子ども理解のために学校への働きかけを推進する。


④ 学びネットい・ず・み推進委員会

<p>■内 容 子どもたちの社会参画体験や遊びを通じて、子ども同士の育ちの輪をはぐくむことを目的とし、七北田中学校区内の地域・市民団体・NPO・企業が企画運営することでネットワークを形成し地域力を高めることを目指す。</p>
<p>■実施日 ① 推進委員会会議：2020年11月27日(金)19:00～20:30 2021年6月29日(火)18:00～19:30</p> <p>※②～⑥は中止</p> <p>② 泉区学びのコミュニティ連絡会 ③ 市小カーニバル ④ あそびの天国 ⑤ 七北田小ゆめフェスティバル ⑥ キャンプだホイ！</p>
<p>■場 所 ①泉区中央市民センター/Zoom 参加可のハイブリッド形式</p>
<p>■評価 子どもの参画の機会を作り、大人が適切なサポートをすることで、地域の中で自分の力を生かしたいと考える子どもを育てるという意味でも意義のある活動であるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響は免れず、当初予定していた活動は全て中止となった。</p> <p>■次へのアクション コロナ禍において感染リスクと子どもの社会参画の場づくりの両立は可能か、今後の感染の広がりを見守りつつ、開催規模やその形態を模索し実施することを検討していく。</p>

⑤ 「子育て応援倶楽部いずみん」(泉区)

<p>■内 容 支援者同士がつながることでお互いが充実し、それによっておやこが適切な支援に結びつくことを目指して活動しているが、コロナ禍の下、つながりが途絶えないよう、各参加団体の活動状況を把握し共有するにはどうすべきか、いずみんが今できることは何かということを考える一年となった。</p>
<p>■実施日</p> <p>2020年11月9日(月)牛乳パックを使った工作紹介動画の制作 (後日、Facebookにアップしました)</p> <p>2020年11月10日(火)令和2年度子育て応援倶楽部いずみん全体会</p> <p>2021年2月12日(金)三役会</p> <p>2021年3月7日(日)オンライン三役会</p> <p>2021年3月25日(木)三役会</p> <p>2021年5月25日(火)令和3年度泉区区民協働まちづくり事業評価委員会への出席</p> <p>2021年6月9日(水)三役会</p> <p>2021年8月6日(金)令和3年度子育て応援倶楽部いずみん全体会</p> <p>2021年9月28日(火)三役会</p>
<p>■評価</p> <p>・支援者に求められるものが時代とともに変化し多様化する中、10周年を迎えた「いずみん」が今後どのように活動したらよいかを考えていく土台にもなったと思う。</p>

⑥ みやぎの区民協議会

第33回 みやぎの・まつり	
<p>■内 容 宮城野区民が地域や世代を超えて相互の交流を深め、連帯意識やふるさと意識を高めるとともに、新たな出会いやコミュニケーションの輪を広げながら、宮城野区らしさの追求と体現を図り、宮城野区民としての意識と区に対する愛着を高めることを目的に、区を挙げて区民手作りによるまつりを実施する。</p>	
<p>■実施日 2021年10月17日(日) 予定 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点により中止とし、次回の開催に向けた取り組みとして、まつりの雰囲気を感じることができるよう、動画や写真、チラシ等を掲載した。 「みやぎの・まつり」情報発信特設サイトを公開した。 (2022年3月まで) URL : https://miyagino-maturi.jp/</p>	
第12回 みやぎの大縁会	
<p>■内 容 宮城野区の地域づくりについて“ざっくばらんに”語り合い、“ご縁”をつくる会。</p>	
<p>■実施日 2021年2月27日(土) ■会 場 仙台市宮城野区中央市民センター 体育館 ■テーマ 「3.11から10年。“もしも”の時も“いつも”のように」 クロスロードゲームを通して考える。</p>	
みやぎの区民協議会 総会	
<p>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、書面評決となった。</p>	
みやぎの区民協議会シンポジウム	
<p>■内 容 宮城野区のまちづくりに役立つテーマを取り上げ、区民の学習及び交流を図る。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点により中止とし、特別企画として「ロジャー遊花のあるあるあ〜る 宮城野区特別版」と題して、ラジオパーソナリティのロジャー大葉氏と落語家六華亭遊花氏による宮城野区の話話をテーマにしたトークや落語をライブ配信した。 ・当日のライブ配信の内容はYouTubeで視聴できる。(webサイト「みやぎの・まつり」内) 	
宮城野区納涼名刺交換会	
<p>■内 容 宮城野区内の各種団体や企業が集まり親交を深める場。</p>	
<p>・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、中止。</p>	

⑦ みやぎの区民協議会 子育て部会

「はっぴい子育てプロジェクト」(宮城野区)

■内 容 市内でも子育て世代の多い宮城野区で、子育てを支える団体が区役所と協働し、子育ての楽しさを実感出来る場を提供。地域との繋がりを深めながら育児不安や孤立した育児を少しでも解消し、明るい育児期の支援を目的とする。

- 1.ママらいふ手帳の作成…子育て中でも自分自身を見失わないための仕掛けと子育て支援情報を包括した手帳の作成
- 2.ママらいふ手帳活用事業…手帳を活用したワークショップ体験、手作りおもちゃ付きのママらいふ手帳の配布、HP や動画による情報発信
- 3.部会の開催…事業の企画、検討、運営

■実施日 ①2020年11月9日 ②2021年1月18日 ③2月15日 ④2月25日
⑤6月8日 ⑥7月1日

■場 所 ①②③⑤…部会の開催 宮城野区役所
④⑥…手遊び動画収録 のびすく宮城野

■評価

- ・3月～5月、8月～10月はコロナウイルス感染対応のため活動は休止となったが、2月～7月に手遊びの動画を「せんだい you tube」で配信出来たこと。
- ・手帳の表紙デザインを宮城野高校の生徒による物を採用し高校生にも子育てについて投げかける発表の場を頂いたと学校より感謝されたなど進歩があった。
- ・新しいデザインの手帳はとても好評だった。

■次へのアクション

- ・QRコードを入れたより使いやすい手帳
- ・父親の育児支援の模索



⑧ とみや児童クラブ連絡協議会

■内 容 富谷市の8児童クラブを運営受託した4団体で組織。富谷市児童クラブの向上を行政との協働で目指してきた。昨年度コロナ禍で中止した富谷市との共催による合同研修会を7月北部アーチル所長の髙森武夫氏を講師に開催した。

構成団体：(特活)虹の架け橋 (特活)仙台YMCAファミリーセンター
(株)アンフィニ宮城支部大崎支店(特活)せんだい杜の子ども劇場
事務局：(特活)虹の架け橋、会長：齋藤純子 副会長：村井伸夫

- ① とみや児童クラブ連絡協議会定例会の開催：毎月1回。
 ・富谷市との協議事項について。
 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う児童クラブ運営について。
 ・次期運営委託に向け、児童クラブ運営上の課題等の整理と検討。
- ② 富谷市とのワーキング会議：1回。

■実施日 ① 2020年11/4 12/2
2021年1/22 2/15 5/15 6/16 7/9 9/15 10/20
※4/19(新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

② 2021年9/22

■場 所 ① 明石台小学校児童クラブ及び榴岡児童館第1サテライト室
② 富谷市給食センター

■参加人数 ① 運営受託4団体の代表および事務局 ② 4運営団体と担当課

■従事者数 ①② 共に運営受託4団体の代表および事務局

■評価

- ・定期開催により、富谷児童クラブ全体の底上げに寄与できた。
- ・富谷市との協働により、支援を要する児童の理解と2か月に1回の専門家による巡回指導が具体化した。
- ・コロナ禍の中、合同研修会を行うことが出来、職員のスキルアップへ貢献できた。

■次へのアクション

- ・支援を要する児童の対応を充実するため、職員の加配措置を提言する。
- ・富谷市と運営団体協働による研修会の継続。
- ・運営団体同士の共感を高め富谷市との市民協働意識を高める→課題の共有と解決に向けての協働行動を進める。

⑨ 成田地区青少年健全育成連絡会

<p>■内 容 成田中学校区内に居住する青少年の健全育成を願い、明るい環境づくりの推進を目的とする。成田中、成田小、成田東小、PTA、富谷高等学校、子供会育成会、町内会、および趣旨に賛同する団体で組織し、成田地区の防犯や交通安全、子どもを守る意識の共有、地区内の現状を把握しネットワークを強化してきた。定期総会は書面総会、情報交換会、研修会、講演会、夏休みパトロール等は新型コロナウイルス感染拡大防止のため行われなかった。</p> <p>① 定期総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面総会。 ② 情報交換会：富谷警察署、各学校からの報告や3地区に分かれての情報交換が年2回開催されていたが今年度も中止。 ③ 研修会・講演会：開催なし。</p>
<p>■実施日 ① 書面表決 ② 12/10 中止 ③ 開催なし</p> <p>■場 所 開催なし</p> <p>■参加人数 協議会構成団体に属する会員</p> <p>■従事者数 協議会役員</p>
<p>■評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行以降、総会をはじめ協議会の活動が休止となり、成田地区の状況を共有するに至っていない。 ・対面での情報交換会に代わり、学校・地域の様子を紙面にまとめ情報共有を図り、2年目となるコロナ禍において、築いてきた繋がりを途切れさせぬよう活動している。 <p>■次へのアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会への研修の提案。 ・児童クラブへの見学を促す。 ・地域行事や防災訓練等に参加する。

【2】東日本大震災の子ども・子育て支援事業

(1) 石巻地区での「杜の子まつり No.10」の実施。

「杜の子まつり～あそびの広場 in 石巻」

■内 容 遊ばなくなったおもちゃを使って地域に様々な活動を作り出すあそび「かえっこバザール」とせんだい杜の子ども劇場が得意とする芸術鑑賞を組み合わせ、被災地支援事業として、東日本大震災発災後から被災家族の支援を他団体等と共に毎年続け9回開催した。前年は震災後10年目の開催がコロナ禍の中で延期となり、節目のNo.10は再び延期となった。震災からの「区切り」としてもNo.10を実施すべく、2022年9月18日、石巻市「マルホンまきあ〜とテラス」の会場を予約している。

■今後に向けて

- With コロナの社会で、「どのように被災地支援事業を行うのか」を検討していく必要がある。
- 子どもが直接触るおもちゃ、オークションの掛け声など「かえっこならでは」の要素を別な視点で考えたい。
- 2022年3月末までの実行委員会立ち上げを目指す。

(2) ママパライン仙台「ささえダイヤル」の実施

■内 容 大震災から10年が経過し、日常の生活を取り戻しているが、3月になると報道等で大震災の話題が取り上げられ、心の隅に押し込めていた辛い記憶がこみ上げ穏やかに過ごせなくなる方が多くなる。我慢しないで本音が語れるラインとして、連続5日間「ささえダイヤル」を設置した。

■実施日 2021年3月8日（月）～3月12日（金）5日間、10時～16時

■場 所 せん杜事務所内

■件 数 1件、通話時間69分

■従事者数 受け手10名、支え手2名、スーパーバイザー1名

■評 価

東日本大震災から10年が経過し、心の復興にはまだまだ年月が必要ではあるが、現在はコロナ感染が及ぼす社会状況の変化が、子育て中の親に大きな負担感と様々な問題が起こっている。

■次へのアクション

10年目を区切りに、ママパライン仙台「ささえダイヤル」を終了し、今後は毎年2月に取り組んでいる「ママパライン全国キャンペーン」に役割を移行する。

【3】社会からの資金調達

(1) 宮城県共同募金会「みやぎチャレンジプロジェクト」による、ママパパラインの寄付を募る。

社会課題解決「みやぎチャレンジプロジェクト」

■実施日 2020年12月1日(火)～2021年2月28日(日)3ヶ月間

■募金方法 専用の振込用紙を使って郵便局から振り込んでもらう。または、共同募金会のHPからのクレジット決済。

■募金目標額 400,000円

■募金件数 67件

■内容 地域課題を解決するためにテーマや使い道を明確にし、寄付者が判断・評価し、主体的に募金する「テーマ募金・使途選択募金」として宮城県共同募金会が行う「みやぎチャレンジプロジェクト」にエントリーできた。子育て中の親たちの孤立化を解決するために、ママパパライン仙台の活動が必要であることを広く県民に呼びかけ募金の協力をお願いした。

■評価

- ・当法人会員や支援者が直接家族や知り合いに声をかけて、多くの方から募金の協力を頂き、2021年4月からの活動に使わせて頂いた。
- ・募金額に共同募金会からの助成額が加算され、助成額は758,000円となった。
- ・企業より50,000円の寄付を頂いた。

■次へのアクション

- ・次年度もエントリーすると共に、自主事業としての充実を図るための予算計上を検討する。
- ・寄付者拡大のための広報の検討。

孤立して孤独な子(孤)育て

親を支える
ママパパライン仙台

皆さまの募金で3つのことができます

- 1 ママパパライン仙台の常設
毎週金曜日：10時～16時
専用電話：022-773-9140
- 2 ママパパライン仙台の
ポスター・カード作成
配属＆配布
子育て支援センターや児童館などの児童福祉施設、子ども発達センターに配布。宮城県内の小学校・幼稚園を通して家庭に届けることができます。
- 3 電話受け手・
スタッフの研修

皆さまの心のこもった募金は
子育て支援活動を支える
大きな力です！

「ママパパライン仙台」は、ママやパパたちが、電話を通して子育ての悩み・不安・イライラした気持ちを話し、受け止めてもらうことで、安定した気持ちを取り戻し、子育てや人間関係に前向きに取り組めるようになることをめざしています。

特定非営利活動法人 せんだい社の子ども劇場
〒981-3133 仙台市泉区泉中央 4-17-1
TEL/FAX 022-375-3548
http://semmori.org
E-mail: office@semmori.org

募金目標額 40万円
募金額に応じて、マッチング助成金が追加されます
あなたの募金額に応じて活動資金が増えます！

【4】組織運営

（1）With コロナ社会の中で、自主事業の在り方を検討し具体化を図る。

コロナ感染拡大による緊急事態宣言や蔓延防止措置が繰り返される中、実施に向けて継続した協議が出来ず具体化を図ることが出来なかった事が実情といえる。この中で、ママパパラインの活動はコロナ禍の中で底が見えない不安を抱えている子育て中の親を電話による傾聴で支えることができたといえる。

（2）4年後の組織体系等を考えるプロジェクトチームの始動

コロナ禍や事務所移転等の状況下でプロジェクトチームの始動には及ばなかったが、「全国児童館・児童クラブみやぎ大会」の実施に向け、法人理事や児童館および児童クラブ職員が「チームみやぎ」として計画段階より参画した。児童館等の枠を超えて運営全体のプロセスに関わり個々のスキルとネットワークは大きく前進した。特に、若い力の台頭に目を見張るものがあった。せん杜全体として考えると、近未来の組織体制の検討にこの力が中心的に関わる可能性を強く感じた。

（3）事務局体制の強化

事務局員1名を採用することができ、週3～5日勤務体制が4名となった。事務所移転が決定し引越し作業には多大な労力が費やされたが、事務局スタッフの準備のもと10月末をもって移転が完了となった。今後は事務局長を中心としスタッフの仕事分担の強化につなげたい。

（4）就業規則の改定

コロナ感染拡大や事務所の移転等で取り組めなかった状況があるが、就業規則改定に意欲的であった門田陽子理事が3月逝去された。本人の思いを考えると無念であったと思う。その思いを受け継いで臨みたい。

就業規則にはないが、緊急措置としてコロナ禍において職員には体調管理の徹底を図ると共に、心身の健康に配慮し、混雑を避けるためテレワーク・時間差出勤や自家用車による出勤、適度に休暇を取る等の対応をした。また、新型コロナワクチン接種後と家族が接種時の付き添いの場合に特別休暇を付与した。

【5】 総会・理事会

第15回 通常総会

(期間：2019年11月1日～2020年10月31日)

日時 2020年12月19日(土) 14:00

場所 エル・ソーラ大研修室(AER28階)

出席者数 27名(委任状12名・書面表決2名含)

(正会員数 34名)

議事

- | | |
|-------|---------------|
| 第1号議案 | 2020年度事業報告 |
| 第2号議案 | 2020年度収支決算報告 |
| 第3号議案 | 監査報告 |
| 第4号議案 | 2021年度事業計画(案) |
| 第5号議案 | 2021年度収支予算(案) |

第16期 理事会 (7回開催)

■第133回

2020年11月6日(金) 18:30～22:00

- ① 来期富谷市児童クラブ運営について
- ② 児童館&富谷児童クラブ事業について
 - ・仙台市：児童クラブ、乳幼児親子、自由来館の受け入れについて
 - ・富谷市：SOATの庭ワークショップ開催有無について
- ③ 職員ヒアリングより
- ④ 新型コロナウイルス感染症に伴う職員の予防処置&発生時の対応について
- ⑤ ママパパライン受け手研修について
- ⑥ R2年度事業計画についての振り返り
 - ・5年後の組織体系を考えるプロジェクト会議の立ち上げについて
 - ・総会資料 R2年度事業報告の作成について
 - ・予算執行について
- ⑦ その他
 - ・税金還付について
 - ・全国児童館・児童クラブみやぎ大会について

■第134回

2020年11月21日(土) 18:30～20:30

- ① 来期富谷市児童クラブ運営について
- ② 児童館&富谷児童クラブ事業について
 - ・防災エンスショー
 - ・「そあとの庭坪沼ワークショップ」
 - ・ベガルタ仙台観戦招待
 - ・児童館保護者会、懇談会について
 - ・年末手当について
- ③ 新型コロナウイルス感染症に伴う職員の予防処置&発生時の対応について
- ④ ママパパライン受け手研修について

【5】 総会・理事会

- 応募状況
- 当日の体制
- 講師対応状況
- ⑤ R2 年度事業計画についての振り返り
 - 5年後の組織体系を考えるプロジェクト会議の立ち上げについて
 - コロナ禍における事業の在り方について
- ⑥ R3 年度事業の方向性について
 - 芸術鑑賞について
 - 柳家花緑「子育て応援講演会」について
 - みやぎチャレンジプロジェクトについて

■第 135 回

2020 年 11 月 28 日（土） 18:30～22:00

- ① 新型コロナウイルス感染症に伴う職員の予防処置 & 発生時の対応について
- ② ママパパライン受け手研修について
 - 応募状況
 - 当日の体制
- ③ R3 年度事業計画について
 - 5年後の組織体系を考えるプロジェクト会議
 - コロナ禍における事業の在り方について
- ④ 決算の見通し & R3 年度予算
- ⑤ 定期総会について
 - 当日までのスケジュール
 - 当日の役割分担

■第 136 回

2021 年 2 月 20 日（土） 18:30～20:50

- ① 事務所移転の件
 - 経過説明
 - 今後の対応
 - 移転先について
- ② 2 月 13 日の地震とこれから
 - 被害状況
 - 緊急事体制
- ③ 児童館 & 児童クラブ状況
 - 職員ヒアリングから
 - 職員募集
 - 余剰金
 - R3 年度事業計画提出
- ④ ママパパラインについて
 - みやぎチャレンジプロジェクトについて
 - 全国キャンペーンについて
 - 宝来産業株式会社からの寄付の報告
 - 全国情報交換研修会の zoom 開催と参加者について
- ⑤ R3 年度事業計画の具体化
 - 次期組織体制づくりについて
 - 事業の具体化
- ⑥ 県児連について
 - 全国大会進捗状況

■第 137 回

2021 年 7 月 3 日（土）18:00～21:00

- ① 事務所移転の件
 - ・経過説明
 - ・移転先について
- ② 児童館&児童クラブ状況
 - ・菅野顧問弁護士による職員研修会
 - ・職員募集
 - ・仙台市実地調査：榴岡 7/5、新田 7/6
 - ・仙台市より消毒業者の依頼について
 - ・光触媒施工
- ③ R3 年度事業計画の具体化
 - ・次期組織体制づくりについて
 - ・事業の具体化
- ④ 県児連について
 - ・全国大会進捗状況
- ⑤ その他
 - ・緊急時体制
 - ・全国センター総会報告
 - ・事務局新スタッフについて
 - ・宮城県子ども劇場・親子劇場よりの依頼について

■臨時理事会（電磁的議決）

2021 年 7 月 7 日（水）14：00

- ① 主たる事務所移転の件

■第 138 回

2021 年 10 月 9 日（土）18:00～21:30

- ① 事務所移転の件
 - ・現在の状況、退去完了までの作業
 - ・退去費用について
 - ・顧問弁護士への成功報酬について
- ② 児童館&児童クラブ状況
 - ・職員募集
 - ・4 か所の状況
 - ・富谷市・仙台市の状況
 - ・職員研修&勉強会について
 - ・職員ヒアリング
- ③ R3 年度事業計画の振り返り&決算の見込み
 - ・管理運営業務、本体事業、次期組織体制づくり等について
- ④ 総会へ向けて
- ⑤ 全国児童館・児童クラブみやぎ大会について
 - ・現在の状況
 - ・せん杜としての協賛について
- ⑥ ママパラインについて
 - ・R3 年「子育て応援講座」について
 - ・全国センターからの助成について
- ⑦ みやぎのまつりについて…中止となり代替イベント実施

【6】広報紙発行

【6】広報紙発行

- 配布対象 会員、宮城県・仙台市の子どもに関わる行政部署、民間の子育て支援活動団体、当団体を支援する個人及び団体。
- 発行頻度 毎月発行。(毎月の表紙は、会員及び支援者による手描きのイラストを掲載)
- 発行部数 450部。
- 内容 表紙イラスト、巻頭文、事業案内、事業報告、児童館 NEWS、ピックアップ情報、事務局より等。



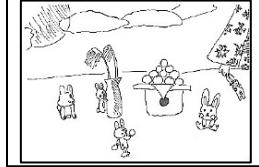
vol.220 2020.11.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「4 回目の秋に」 成田小学校児童クラブ統括 森 幹彦
 ママパパライン仙台、愛知絢子さんが逝去されました、ちょこタイムつうしん、
 児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、仙台弁検隊 他



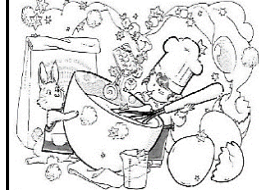
vol.221 2020.12.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「大崎でこんな活動をこんな活動をしています！」
 NPO 法人おおさき地域創造研究会 事務局長(せん杜理事) 小玉 順子
 ママパパライン仙台、ちょこタイムつうしん、児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、
 サンタ&ツリー工作・楽天イーグルス8月度の東北ヒーローに選ばれました 他



vol.222 2021.1.1 発行 10 ページ
 巻頭文：「大人が嘆いている場合じゃない」
 (特活)せんだい杜の子ども劇場 代表理事 齋藤 純子
 2020 年度第 15 回定期総会報告、ママパパライン仙台、ちょこタイムつうしん、
 おうち時間アレコレ(みかん De 皮むきアート)、児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS 他



vol.223 2021.2.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「生贖の羊は首を切られる、じゃじゃ〜ん！」 齋 正弘(さい G)
 ママパパライン仙台、ちょこタイムつうしん、おうちじかんアレコレ(おてがるおやつ編)、
 児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、 他



vol.224 2021.3.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「スクリーン・メディア(テレビ・ゲーム・スマホ・タブレット等)の
 長時間使用による弊害〜子どもがいなくなる〜」 小児科医 田澤 雄作
 ママパパライン仙台、ちょこタイムつうしん、おうちじかん時間アレコレ(紙皿ひな人形)、
 児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、せん杜のうごき 他



vol.225 2021.4.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「いつからか百番目の猿」 せんだいメディアテーク 八巻 寿文
 ママパパライン仙台、ちょこタイムつうしん、児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、
 おうちじかんアレコレ(もこもこカップケーキ)、せん杜のうごき、事務局より 他



vol.226 2021.5.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「センス オブ ワンダーは不滅なのだぁ！の巻」新田児童館 半澤 夏実
 ママパパライン仙台、児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、せん杜のうごき、
 事務局より、ピックアップ情報 他



vol.227 2021.6.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「協力体制で乗り越えよう」
 NPO 法人ファザリング・ジャパン東北 共同代表理事 竹下 小百合
 ママパパライン仙台、門田陽子さん訃報、おうちじかんアレコレ(紙コップででん)、
 児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、せん杜のうごき 他



vol.228 2021.7.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「生きている私たちと音楽と」
 ピアニスト・昭和音楽大学講師・(一社)ミュージックプロデューサー MHSK 理事 田原 さえ
 ちょこタイムつうしん、ママパパライン仙台、おうち時間アレコレ(びよんびよんカエル)、
 児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、せん杜のうごき、事務局より 他



vol.229 2021.8.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「DV 離婚・性暴力被害者の相談の日々」
 NPO 法人ハーティ仙台代表 やはた えつこ
 ちょこタイムつうしん、ママパパライン仙台、おうち時間アレコレ(ゆらゆらセタリース)
 児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、せん杜のうごき、事務局より 他

vol.230 2021.9.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「歌い手として皆さんに伝えたいこと」
 仙台オペラ協会芸術監督 佐藤 淳一
 ママパパライン仙台、第 17 回全国児童館・児童クラブみやぎ大会、
 おうち時間アレコレ(くるくるお月見コップ)、児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS 他

vol.231 2021.10.1 発行 8 ページ
 巻頭文：「指定管理者になりました！」
 NPO 法人おおさき地域創造研究会 事務局長(せん杜理事)小玉 順子
 事務所移転のお知らせ、ママパパライン仙台、第 17 回全国児童館・児童クラブみやぎ大会、
 児童館☆NEWS・児童クラブ☆NEWS、おうち時間アレコレ(どんぐり人形) 他

【7】各種委員会・講師派遣等

■委員委嘱 / 委員会名

宮城県文化振興財団助成金審査会	公益財団法人宮城県文化振興財団
宮城野区まちづくり事業評価・選考委員会	仙台市
仙台市発達障害者支援地域協議会	仙台市
仙台市自分づくり教育研究会	仙台市教育委員会
仙台市男女共同参画財団理事会	仙台市男女共同参画財団
宮城県ボランティア総合センター運営委員会	宮城県社会福祉協議会
宮城県文化芸術振興審議会	宮城県
榴岡小学校 学校関係者評価委員会	仙台市教育委員会
寺岡小学校 学校関係者評価委員会	仙台市教育委員会
七北田小学校 学校評議員会	仙台市教育委員会
宮城野区社会福祉協議会	仙台市社会福祉協議会
泉区社会福祉協議会	仙台市社会福祉協議会

■委員会・実行委員会名

泉区内学びのコミュニティ連絡会	泉区中央市民センター
ふれあい学びネットいずみ推進委員会	泉区中央市民センター
仙台市内児童館連絡協議会	仙台市内
子どもの放課後支援をすすめる会	仙台市内
子ども NPO・子ども劇場全国センター	全国
ママバパラインプロジェクト会議	全国
みやぎの・まつり 実行委員会/企画委員会	宮城野区
みやぎの区民協議会 理事会/企画委員会	宮城野区
みやぎの区民協議会子育て支援部会「はっぴい」	宮城野区
子育て応援倶楽部「いずみん」	泉区
寺岡小学校 地域教育協議会	仙台市立寺岡小学校 学校支援地域本部
七北田小学校 地域教育協議会	仙台市立七北田小学校 学校支援地域本部
榴岡小学校 地域教育協議会	仙台市立榴岡小学校 学校支援地域本部
市名坂小学校地域教育協議会	仙台市立市名坂小学校 学校支援地域本部
楽天 FM 番組審議会	楽天野球団
宮城県児童館・児童クラブ連絡協議会	宮城県内
全国児童館・児童クラブみやぎ大会	県児連・児童健全育成推進財団等 3 者共催
とみや児童クラブ連絡協議会	富谷市内
自閉症ピアリングセンターここねっと理事会	NPO 法人自閉症ピアリングセンターここねっと
アフタースクールばるけ理事会	認定 NPO 法人アフタースクールばるけ

■主な講師派遣 / 講師派遣先・取材など

プレイワーカーズよりのインタビュー	全国児童館・児童クラブみやぎ大会 第7分科会仙台市子供未来局長との鼎談
(特活) にじいろクレヨンより zoom 取材	田原さえ MHKS でのゲストスピーカー